

[令和4年度]

2022年度

長崎大学病院

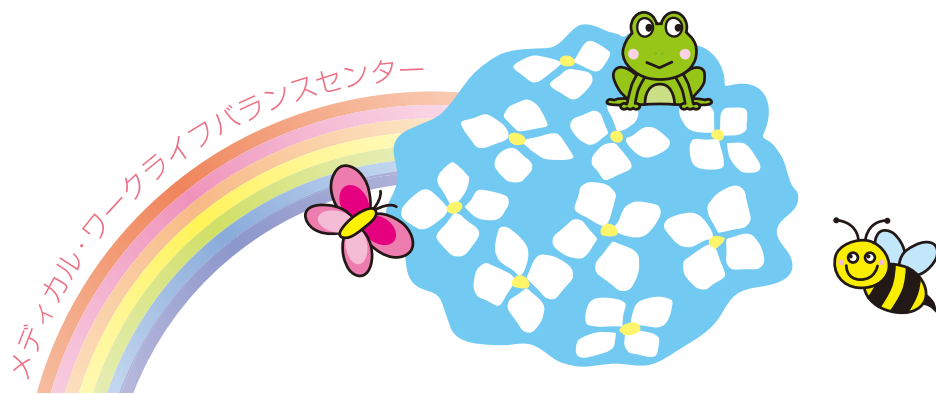
メディカル・ワークライフバランスセンター

あじさいプロジェクト

活動報告書

a **Ji** *Work* **I**
S **A**
P **O**
Life **R** **J** **C** **T**
E *Balance*

vol. **11**



あじさいプロジェクト

NAGASAKI AJISAI PROJECT

仕事と生活の両立を図りながら活躍するドクターを応援します！

キャリアサポート

自分らしく、キャリアを継続するために



- ・コンサルティング
- ・復職&リフレッシュトレーニング
- ・講演会やセミナーなどの開催報告
- ・女性医師ネットワークづくり
- ・輝く卒業生インタビュー
- ・アカデミック キャリアアップへのアドバイス

両立サポート

育児、介護…ライフイベントを迎えても、安心して働くために



- ・長崎医師保育サポートシステム
- ・イブニングシッターサービス
- ・マタニティ白衣・スクラブ・パンツ貸出
- ・両立ガイドブック
- ・子育て家庭に役立つ情報/国の支援制度
- ・長崎県の病児保育・病後児保育施設

長崎県内病院の取り組み

ワークライフバランス実現を目指しています！



- ・ワークライフバランス推進員
- ・ワークライフバランス推進員メッセージ
- ・長崎大学病院の取り組み
- ・病院インタビュー
- ・地域就労支援病院
- ・私たちのワークライフバランス実践術

長崎大学病院は長崎県の委託をうけて、メディカル・ワークライフバランスセンターを設置し、長崎県内の医師が「働きやすさ」と「働きがい」を感じて医療に取り組める環境設備を常に考えています。センターが推進するのがあじさいプロジェクトです。



【ロゴコンセプト】

あじさいプロジェクトのロゴには、カエル(働き方をカエル、働き方をかんガエル)、ミツバチ(I will be(e))となりたい医師のイメージを持ち、そして蝶のように大空へ舞ってほしい、という願いが込められています。

長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター
〒852-8501 長崎市坂本1-7-1 ☎(095)819-7979 <http://nagasaki-ajisai.jp>

目 次

はじめに	2～3
------------	-----

1.プロジェクトの概要と目的

①あじさいプロジェクトとメディカル・ワークライフバランスセンターについて	4
②あじさいプロジェクト運営組織図と連携機関	4
③ あじさいプロジェクトWebサイトからの発信	5
④Facebookからの発信	5
⑤病院イントラネットからの発信	5
⑥ あじさいプロジェクト通信(メールマガジン)からの発信	5

2.両立支援活動

①キャリアサポート

1)キャリアコンサルティング	6
2)復職&リフレッシュトレーニング(全2回)	7～8
3)学生キャリア講習会(3年生)	9～11
4)養成医のワークとライフをきいてみよう!(全2回)	12～13
5)アカデミックキャリアアップへのアドバイス	14～15

②両立サポート

1)長崎医師保育サポートシステム	16～18
2)当直中の育児支援	19
3)イブニングシッターサービス	20
4)両立ガイドブック(4種類)	20
5)マタニティ白衣・スクラブ・パンツ貸出	21～22
6)すべての医師を支援しています	23
7)長崎県に勤務する男性医師の育児休業取得者コメント集 Vol.2	23

③長崎県内病院の取り組み

【長崎大学病院の取り組み】

1)医局長訪問	24～25
2)仕事と介護の両立サポート 教職員相談会	26
3)病児保育施設 にじいろ	27
4)あじさい保育園	28

【長崎大学の取り組み】

5)文教おもやい保育園	28
-------------------	----

【地域病院の取り組み】

6)ワークライフバランス推進員	29～30
7)地域就労支援病院	31
8)私たちのワークライフバランス実践術	32

3.調査・研究

①2022年度 医学生におけるワークライフバランス、キャリア意識に関するアンケート	33
②2022年度 医師の両立支援状況調査	34～35

4.広報活動

①講演	36
②メディア掲載	36

5.委員会活動

①センター運営委員会	37
②企画会議	37
③長崎県女性医師等就労支援協議会	37

6.その他

①参加・受講	38
②見学来訪	38
③調査協力	38
④関連機関所属一覧	39
⑤メディカル・ワークライフバランスセンターへのアクセス	39

はじめに



長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター センター長 南 貴子

メディカル・ワークライフバランスセンターは2012年に開設し、11年目の活動を本誌でご報告いたします。私は2014年(開設3年目)4月より副センター長として活動に加わり、2022年10月よりセンター長を拝命いたしました。

伊東昌子前センター長が築かれた基盤をさらに安定させて、医師・医療人のワークライフバランス=仕事と生活の調和の実現のために「あじさいプロジェクト」活動を継続していく所存です。

COVID-19の影響を受けて始めたオンラインでのイベントに慣れてきたところで、「学生キャリア講習会」では、海外在住の医師にZoomを利用してライブでご参加いただきました。離島で働く医師と学生との交流会も引き続き開催いたしました。また感染症対策を講じながら、3年ぶりに対面でのイベントを再開いたしました。開設当初からの事業「マタニティ白衣・スクラブ・パンツ貸出」は、県内医師の利用数が延べ100名に達しました。「長崎医師保育サポートシステム」は、嬉しいことに着実に利用する医師が増えております。これまでの実績を認めていただき、2027年度までの5年の間、長崎大学病院からの運営予算を確保することができました。これからも「育児の共有」をすすめて、医師が仕事と生活のどちらも諦めることなく、キャリア形成、キャリア継続、キャリア向上できる環境整備と支援を行いたいと思っております。

また今年度は、育児・介護休業法の改正が段階的に行われ、育児休業を取得しやすい環境が整備されました。取得要件の緩和により異動が多い若手医師の取得や、創設された育休の分割取得により連続した休みが取れない男性には、最大4回に分けて取得が可能となるため、育休制度の理解・推進に拍車がかかり、生活を大事にしなが、仕事のやりがいも感じる相乗効果が生まれるとことを期待しております。

これからも、皆様のご理解とご支援をいただき、働きやすい長崎県、本土でも離島でも働きがいのある医療現場、医師・医療人のワークライフバランスの実現のために、さらに努めてまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



WORK LIFE BALANCE



長崎県 福祉保健部医療人材対策室 医師確保推進班

参 事 **喜多 由美子**

長崎県は、医師多数県となっておりますが、地域間の医師数には偏在がみられることから、県では医療提供体制の整備など地域医療の支援を行っております。

医師の皆様によりがいをもち働き続けていただくことができる環境整備は、地域医療体制の確保につながり、県民の皆様が地域で安心して暮らしていただけることができる長崎県づくりにつながるものと信じています。

医療従事者の方が、心も体も健康であることは第一であり、仕事と家庭の両立支援や復職サポートなどメディカル・ワークライフバランスセンターの取り組みは、今後ますます重要になってくることと思います。

今後とも、一体となって医療機関における就労環境の改善に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



1. プロジェクトの概要と目的

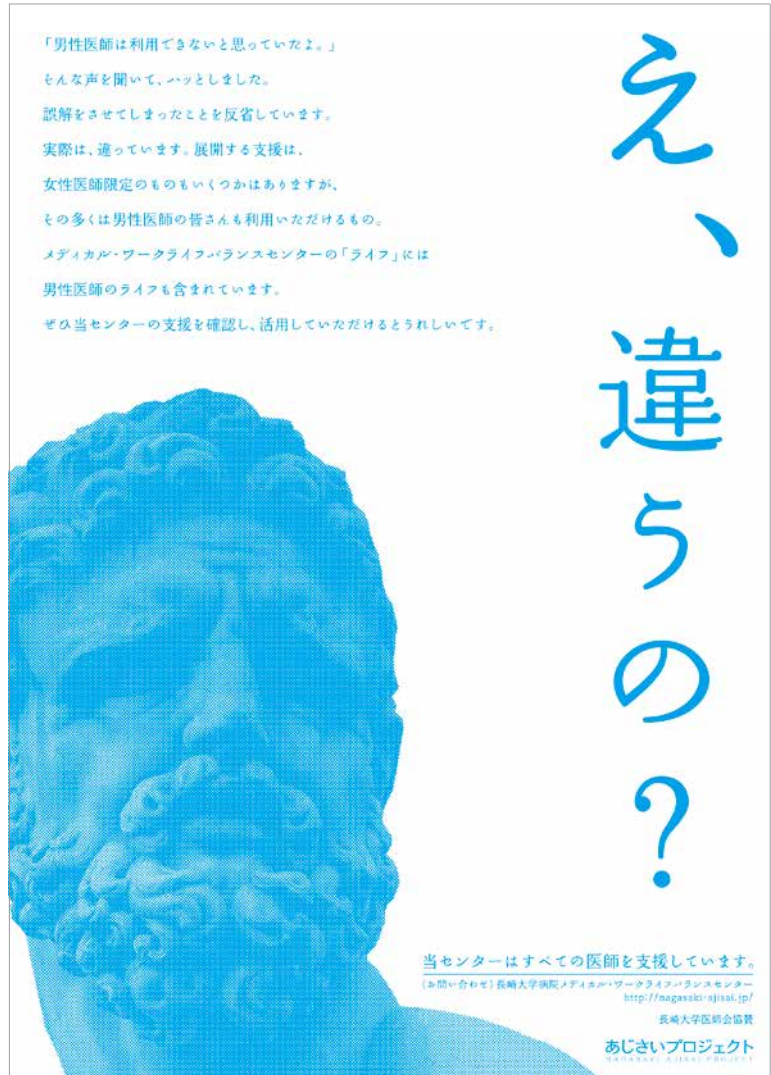
1 あじさいプロジェクトとメディカル・ワークライフバランスセンターについて

2012年4月に長崎大学病院内にメディカル・ワークライフバランスセンターが開設されました。

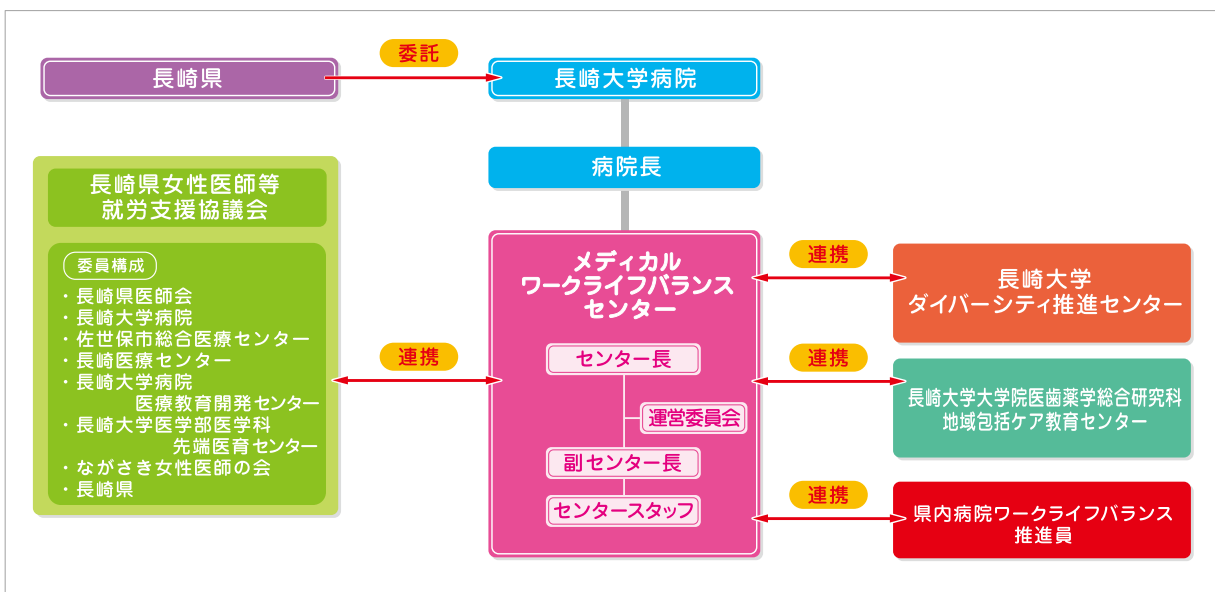
「あじさいプロジェクト」は、長崎県を対象に、医師が仕事と生活の両立を実現するための支援とその環境整備を推進するプロジェクトで、メディカル・ワークライフバランスセンターが中心となり、関係機関と連携してプロジェクトを進めています。

Webサイトでさまざまな支援情報、イベント情報、ロールモデルの紹介記事などを発信し、県内の医療機関に、仕事と生活の両立が可能な就労環境の整備を働きかけています。

また、メディカル・ワークライフバランスセンターは、長崎大学病院の医療人を対象に、職場復帰・就労維持支援・仕事と生活の両立の可能な職場環境の整備、および次世代の医療を担う医療人の育成支援に努めています。



2 あじさいプロジェクト運営組織図と連携機関



3 あじさいプロジェクトWebサイトからの発信

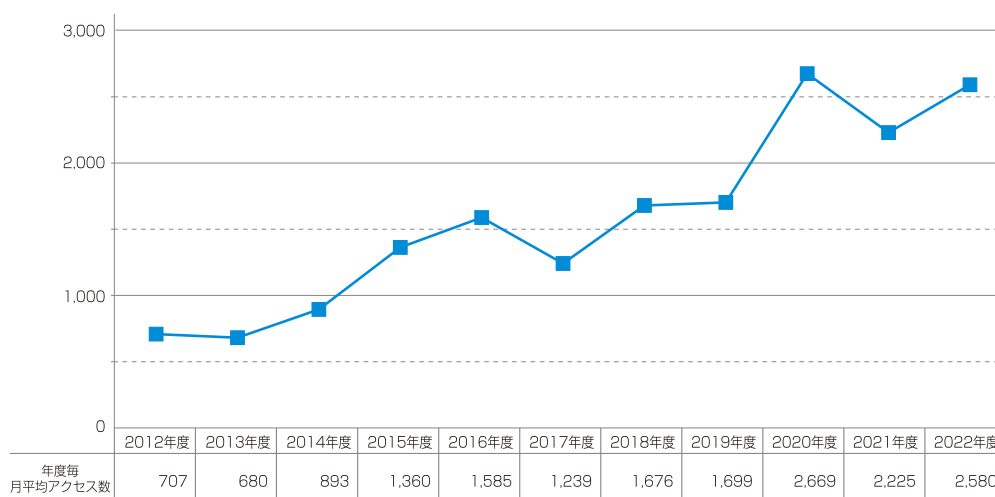
長崎県内で働く医師・長崎大学病院に勤務する医療人にとって、働きやすい職場環境の整備を推進し、ワークライフバランス施策に基づいた職場づくりができるように情報を発信しています。

情報発信の3つの柱は「キャリアサポート」「両立サポート」「長崎県内病院の取り組み」のテーマ別にアクセスすることができます。随時内容の充実に努めてまいりますので、ぜひご覧ください。



Webサイト

あじさいプロジェクトWebサイト 年度毎 月平均アクセス数 (2023年2月1日現在)



4 Facebookからの発信

「いいね」や「シェア」の
応援ありがとうございます。



Facebook

5 病院イントラネットからの発信

長崎大学病院のイントラネットに、Webサイトを公開
しています。

6 あじさいプロジェクト通信 (メールマガジン)からの発信

読者約1,080名へ、月1回メールマガ
ジンを発信しています。イベント開催のお
知らせや活動報告、ワークライフバランス
実現への施策などを紹介しています。



メールマガジン

2. 両立支援活動

1 キャリアサポート

自分らしくキャリアを継続するために、ライフステージに応じた働き方を一緒に考えていきます。

1) キャリアコンサルティング

妊娠・子育て・介護などのライフイベントにより、医師としてのキャリア継続に不安をお持ちの方や、休職中の方、復職を考えている方、ひとり親の方などへ、キャリア支援のためのコンサルティングを行っています。

対象：長崎県内の医師、長崎大学医学部学生、長崎大学病院教職員など

あじさいプロジェクト キャリアプランのイメージ

※長崎大学病院の非常勤医師をモデルケースにしています。

勤務形態のパターン	勤務時間
パターン1 フルタイム 医師	● 38時間45分/週 7時間45分/日
パターン2 パートタイマー 医師	● 20時間～30時間以内/週 7時間45分以内/日
パターン3 パートタイマー 医師	● 20時間未満/週 7時間45分以内/日
パターン4 復帰医 ※未就学児がいる場合	● 16時間以下/週 7時間45分以内/日

※コンサルティング内容

両立支援

- 育児関連情報提供(保育園・学会参加時の託児など)
- 復職事例紹介 ● 介護コンシェルジュ紹介

キャリア支援

- 復職トレーニングの案内 ● 各種研修会の案内
- セミナーDVDの貸出
- メルマガ「あじさいプロジェクト通信」紹介など

センター
コンサルティング※

どの勤務形態からのスタートを希望するか、センターへご相談ください。
ライフスタイルの変化と共に勤務時間を見直してステップアップを目指しましょう。

介護があるので「パターン2」を希望します!

保育園を利用して「パターン3→2→1」に移行したいです!

親子の体調を考えて「パターン4」にします!

【相談業務】 2023年2月1日現在

2022年度相談数 63件 (内訳) 長大病院 41件
県内病院 11件
その他 11件(行政・他大学・各県医師会など)

【申し込み方法】

あじさいプロジェクトwebサイトのお問い合わせ・お申し込みフォームをご利用いただくか、センターへ直接お電話ください。

後日、日程調整のご連絡をします。

※お子さんの同伴可能です。

※対面、Zoom利用、電話でのご相談が可能です。



2) 復職&リフレッシュトレーニング(全2回)

育児・介護などで休職・離職中の医師や育児休業取得予定の医師のスムーズな復職を促すプログラムです。就労中の方も、予約可能です。

トレーニングDVDは、いつでも貸し出ししています。



【メディカル・ワークライフバランスセンター 復職&リフレッシュトレーニング DVD貸出一覧】

※貸出を希望される【NO】をセンターへお知らせください。

タイトル	講師	貸出NO
不妊治療～一般不妊治療から生殖補助医療まで～ NEW	梶村 慈 先生	33 
押さえておきたい頭部救急疾患の画像診断 NEW	高松 紘子 先生	32 
リハビリテーション科医師ってどんな仕事？	酒井 和香 先生	31 
COVID-19 肺炎の画像診断の役割	岩野 佑介 先生	30 
私の糖尿病治療薬の使い分け	原口 愛 先生	29 
胸部CTの活用法～呼吸器内科医の視点から～	石本 裕士 先生	28 
急性冠症候群～見逃してはいけない胸痛～	米倉 剛 先生	27  配布資料有
乳がん～先生、胸にしこりがあるんですけど～	久芳 さやか 先生	26 
めまい～それほど難しくないめまい患者の診方～	木原 千春 先生	25 
胸部単純X線写真読影の基本～まずは異常に気づきましょう～	島本 綾 先生	24 
心肺蘇生の基本	山下 和範 先生	23 
これは湿疹？蕁麻疹？それとも薬疹？～重症薬疹を見逃さないために～	富村 沙織 先生	22 
熱と咳のプライマリケア	中道 聖子 先生	21 
消化器内視鏡診療の最前線	中舗 卓 先生	20 
腹痛の画像診断～CT画像を中心に～	林 秀行 先生	18 
古くて新しい感染症～デング・NTM・結核・SFTS etc.～	神白 麻衣子 先生	16 
だれでも遭遇する心房細動治療のこれだけは ～残念な経過にならないために最小限気をつけること～	荒川 修司 先生	15 
「コメディカル以上、専門医以下」で見逃さない、脳卒中	立石 洋平 先生	14  DVD無 配布資料有

<復職&リフレッシュトレーニング(全2回)>



対象：長崎県内の医師、主に休職・離職中の医師など
 日時：下記隔月の第2金曜日 9:00～16:00の間
 ※面談時間は、1家庭あたり30分を目安
 第1回 2022年8月 5日(金)
 第2回 2023年1月13日(金)
 場所：長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター
 ※来訪、電話、オンラインなどで面談

- 1. トレーニングDVDの貸出 利用5名:院内3名、院外2名
- 2. 個別の復職相談 利用6名:院内6名
- ※ 1. 2. 重複利用3名

個別相談では、センターへ来訪面談は2名、オンライン面談は4名でした。

今年度は、感染症の影響で保育園や学校が急に休園・休校となることが度々あり、対応策で「長崎医師保育サポートシステム」を利用する事例があることを紹介しました。また、相談者全員が長崎大学病院所属だったため、院内病児保育施設「にじいろ」の利用方法、院内保育所「あじさい保育園」の詳細を丁寧に説明し、そのほか、小学校の選択、短時間勤務についてなど、相談者のお子さんの年齢層も考慮した種々の内容で、復職に向けての段取りを個別に話し合いました。

初めてのお子さんの場合は特に、育休から復職に向けて、不安なこと、知らないことも多いと思いますので、いつでもセンターにご相談ください。

2022年度 追加プログラム
復職&リフレッシュ トレーニング 個別対応
 復職&リフレッシュトレーニングは、育児・介護などで休職・離職中の医師や身体取得予定の医師のスムーズな復職を促すプログラムです。復職中の方も、予約可能です。
DVD レンタル 各分野のトレーニングDVDを無料で貸し出しますので、自宅学習で医学知識のバージョンアップにお役立てください。
 ① ①57プログラムとWebサイトプログラム ② ②11プログラム ③ ③11プログラム
 ④ ④11プログラム ⑤ ⑤11プログラム ⑥ ⑥11プログラム
個別相談 復職する前に、仕事と生活の両立に関する情報などについて、個別の復職相談を行います。
 ⑦ ⑦11プログラム ⑧ ⑧11プログラム ⑨ ⑨11プログラム
 ⑩ ⑩11プログラム ⑪ ⑪11プログラム ⑫ ⑫11プログラム
 ⑬ ⑬11プログラム ⑭ ⑭11プログラム ⑮ ⑮11プログラム
 ⑯ ⑯11プログラム ⑰ ⑰11プログラム ⑱ ⑱11プログラム
 ⑲ ⑲11プログラム ⑳ ⑳11プログラム ㉑ ㉑11プログラム
 ㉒ ㉒11プログラム ㉓ ㉓11プログラム ㉔ ㉔11プログラム
 ㉕ ㉕11プログラム ㉖ ㉖11プログラム ㉗ ㉗11プログラム
 ㉘ ㉘11プログラム ㉙ ㉙11プログラム ㉚ ㉚11プログラム
 ㉛ ㉛11プログラム ㉜ ㉜11プログラム ㉝ ㉝11プログラム
 ㉞ ㉞11プログラム ㉟ ㉟11プログラム ㊱ ㊱11プログラム
 ㊲ ㊲11プログラム ㊳ ㊳11プログラム ㊴ ㊴11プログラム
 ㊵ ㊵11プログラム ㊶ ㊶11プログラム ㊷ ㊷11プログラム
 ㊸ ㊸11プログラム ㊹ ㊹11プログラム ㊺ ㊺11プログラム
 ㊻ ㊻11プログラム ㊼ ㊼11プログラム ㊽ ㊽11プログラム
 ㊾ ㊾11プログラム ㊿ ㊿11プログラム
 主催：長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター 内務課 長崎県医師会
 長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター
 TEL: 095-819-7979 (内線 7979)
 E-mail: info@med.nagasaki-u.ac.jp
 URL: http://med.nagasaki-u.ac.jp



参加者の声

- 「長崎医師保育サポートシステム」で、実際どのような利用をされているか等のお話を聞いて、復職後の不安が解消されました。
- 近くに似たような境遇の先輩医師が少ないため相談できず不安でしたが、気軽にお話ができ、心が軽くなりました。
- 時短勤務からフルタイム、日直開始時など、勤務形態が変わる時に、また相談したいと思いました。
- トレーニングDVDを視聴し、やはり画面でしっかりCT・MRI画像を確認できたのが良かったです。
- トレーニングDVDの貸出で、学習の機会があるのは大変ありがたいと思います。

3) 学生キャリア講習会 (3年生)

「ワークライフバランス」について、学生講義を担当しました。1時限から6時限までの丸一日をかけて、「医師としてのキャリア継続のため、ワークライフバランスの考え方を知るとともに、医師としての多様な生き方を学ぶ」ことを目的として取り組みました。

対 象：長崎大学医学部医学科3年生

(男性85名、女性39名 合計124名)の「医と社会」教育の一環で実施。

日 時：2022年9月30日(金)8:50～16:20



ロールモデル医師の講演①



「アメリカ臨床留学から研究室立ち上げそして子育てまで」

ミネソタ大学 糖尿病・内分泌代謝部門

Assistant Professor 荒木 貴子 先生



臨床留学のきっかけ、生涯のメンターとの出会い、下垂体専門分野を極める決意とチャレンジ精神、シングルママとして双子の子育てとキャリアの両立方法などについて話しました。「男性だから、女性だからとリミットを作らないこと、ダメかな～とは考えずにどんどん挑戦してほしい。医学部3年生の頃は私自身も道に迷っていて、今の立場を全く想像もできていなかったの、皆さんの可能性は多様にある。」とのメッセージを贈りました。

ワークライフバランス講義

「多様性の尊重とキャリア形成について考える～無意識の偏見～」

長崎大学 理事 伊東 昌子 先生



伊東先生の医師としての研究テーマ「骨粗鬆症」について、マイクロCT画像の説明は学生の目を惹きつけました。いわゆる男社会の中で臨床・研究を学び、地位を確立された伊東先生の自己紹介は、様々な選択と覚悟の積み重ねがあったことが感じ取れました。「アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)は、だれもが持っていること、これを意識することで社会生活が変わってくることを学び、認識してほしい。」と話しました。また、アンコンシャスバイアスの解決法として「心理的安全性」という考え方があることを紹介しました。

メディカル・ワークライフバランスセンターの取組紹介

メディカル・ワークライフバランスセンター センター長 南 貴子 先生



南先生のキャリア年表を示し「道のりも歩むスピードも多種多様。子どもを授かった時の相談や介護相談もできるので、両立に悩んだ際はセンターへ相談してほしい」と話しました。

長崎県医師会の取組紹介

長崎県医師会 常任理事 瀬戸 牧子 先生



「国の予算から社会保障の財源を獲得しようにも医療系の議員が少ない現状では充実が見込めない。医師会の取り組みは多岐に渡っていることをもっと多くの人に知ってもらい、若い先生方には男性も女性も関係なく分科会など身近なところから医師会の役割に関与してほしい。」と話しました。

グループ討論

仕事と育児の両立を目指す共働きの医師が、問題に直面した時にどのように解決していくかを、グループに分かれて討論しました。



発表と先輩医師からのアドバイス

事例毎に、12グループが発表しました。うち2グループには3年ぶりにロールプレイング発表をしてもらいました。ワークライフバランス推進員などの先輩医師から、貴重なご意見を聴かせていただきました。



<先輩医師の感想>

消化器内科 田淵 真惟子 先生

久しぶりに病院実習前の医学部学生さん達のお顔を拝見いたしました。皆さん、お若いにも関わらず、メディカル・ワークライフバランスセンターから出された絶妙に際どい難問に真摯に向き合っている姿に、とても感銘を受けました。子育てや仕事は私自身、ぶち当たって初めてその困難さに気づいたような未熟者ですので、皆さんの他人事ではない、かつ悲観的でもない前向きな意見が羨ましくも感じました。医療と私生活の両立は困難な道であることも間違いありませんが、これからの医療を支える若い力に期待したいと思います。



腫瘍外科 田中 彩 先生

これから数年後には医師になる皆さんが、今どのように働き方について考えているのか、知ることができて、とても面白かったです。「両親を頼る」という選択をするグループが多いように感じましたが、両親には両親の生活がありますし、いつも元気というわけではありません。体調の悪い子どもを預けるのは、うつしてしまうリスクもあるし、元気のある子どもよりも責任を重く感じさせてしまうので申し訳ないと私は思っています。適度に一緒に育児を楽しんでもらえたらという距離感でいられる方が良いのではないかなと思いました。長崎には小児科併設の病児保育施設や、大学病院の病児保育施設「にじいろ」がありますので、そのようなサポートを活用するのも良いのではと思います。また、引っ越しをしないという選択をするグループがありましたが、環境が変わっても、家族一緒に過ごせる時間は貴重ですし、子どもは意外と強いかなと思います。特に共働きをしていると、自分が育児をできる時間は、本当にあっという間に過ぎると実感しています。振り返ればきっと良い思い出です。自分のキャリアも大事にしつつ、自分の周りの人や子どもを大切にできるように、一緒に頑張っていきましょう。



皮膚科 服部 尚子 先生

与えられたケースに対する短期的・長期的な対策や、それぞれの結論が、とても現実味を持っていて驚きました。皆さんの回答から学ぶことも多くあり、有意義な時間を過ごさせていただきました。また「キャリアを諦めない」選択をされている方が多く、意識の高さも感じました。現実的には、どこかの段階で何かしら手放さないといけないものや諦めないといけないものも出てくるかと思うのですが、今回のように想像力をはたかせて、自分や家族にとって何が一番重要なのか、大切なのかを見極めながら進んでいただければと思います。



麻酔科 吉崎 真依 先生

とても印象的だったのは、いずれのシナリオにおいても、家族という設定の中で誰かが我慢しないといけないということではなく、お互いの仕事や考えを尊重しながら、その中でどうすればうまくいくか、ということに多くの学生さんが重点を置いていたことです。家庭も仕事も周りの協力がなければ成り立たず、周りに感謝しつつ、お互いに尊敬しようということが大切だと思います。今だからこそそのように思えますが、自分が学生の頃にはそこまで深く考えることはできていませんでした。今回の発表を聞かせていただいて、ただただ素晴らしいなあと感銘を受けました。



心臓血管外科 田口 駿介 先生

私自身が大学生の頃はワークライフバランスのことについて考えることがほとんどなく、正直なところ、心臓血管外科に進み、仕事第一で家庭のことははじめ、私生活のことはこの次だろう、などと考えていました。しかし、実際に結婚し子どもを持つと考え方が変化してきました。今回の講習会に参加させていただき、学生さん達の意識の高さに驚かされるとともに、これからの時代はワークライフバランスが重要な鍵を握っているなと改めて感じました。皆で気持ちよく仕事をしていくために少しでも出来る事はないかと日々模索していきたいと思いました。



医療教育開発センター 松島 加代子 先生

育休はもちろんのこと、院内外で利用できるサポートシステムを学生さん達が詳細を発表しており、メディカル・ワークライフバランスセンターの取り組みが認知されてきていることを嬉しく思いました。長崎の医療機関の良いところは、どこへ行っても顔の見える関係で繋がりをもってワークライフ支援を受けられるという点です。ぜひ、学生のうちに、長崎の良い部分を吸収し、広い視点を持って積極的に実践する力を養ってください。そうすれば、将来どこに行こうとも、柔軟に対応できると思います。また、今後のキャリアのなかで誰にでも、体力的、時間的、経済的…様々な理由で、凹凸が生まれると思います。そんななかでもお互いを思いやり協調しながら豊かなワーク&ライフを過ごしてほしいと思っています。いつでも頼って来てくださいね。



ロールモデル医師の講演②「私のメディカルワークライフバランス ～無理なく共働きを続けるために～」

長崎大学病院 血液内科 助教 佐藤 信也 先生

佐藤先生が「自分、家事や子育て手伝ってる方だね。何パーセントくらいかな？」とパートナーに尋ねたところ「0%!」との返事で驚いた会話の紹介があり、夫婦の家事・育児に対する意識のズレを無くすこと「男性は特に手伝っているという発想はおかしい」ことに気づき、家事・育児の分担を明確にする、コミュニケーションを図る、利用できるサービスは積極的に受けるようにアドバイスしました。



ロールモデル医師の講演③「卒後13年目医師が思うワーク&ライフに 大切なこと5選」

長崎大学病院 循環器内科 医員 黒部 昌也 先生

①仲間を作る→自分の思いを表現しきちんと伝える事ができる環境・信頼できる人を増やす②きちんと断る→安請け合いはせず自分の担当業務に支障が出そうな時は、中途半端な関わりで逆に迷惑をかけないように勇気を持って断り、代替案を出す③料理を作る→家族の行動や健康状態など家庭全体を把握しやすい④スイミングスクールに通う→父担当枠で送迎を行い父と子の関係づくり、仕事と別の居場所を持つ⑤育休を取る→ライフイベントで家族一緒に変化する、家事・育児の目線を合わせる、仕事の任せ方を学ぶ、職場の組織力が上がる、家庭・仲間へ貢献したいと思える、など黒部先生の実体験からわかりやすく話しました。



<学生の感想>

- 医療関係はどうしても多忙でパートナーへの負担が大きい職業であると偏見を持っていたが、いまはワークライフバランスを重視した将来に期待できるようになった。
- 男性だからとか女性だからという考えがなくなってきている(そういう人もまだいるが)という現状があることがすごく良いことだと思う。僕も将来パートナーと協力して仕事と家庭の両立ができればと思う。
- ワークライフバランスについて考える機会はこれまでも何度かあったが、今回ほど現実的なのは初めてだった。特にロールモデルとなる先生のお話を聞いたことはとても良かった。
- 長崎大学はいろいろな先生方が仕事と家庭を両立していて凄く良い環境だなと思った。
- 特に男性は取りにくいイメージのあった育休であったが自分の生活のためにも必要であり、また取りやすくなってきていることがわかりとても安心した。
- グループワークでは、同じ症例でも自分とは違った視点の問題点が出てきたので、面白かった。
- 実際に子育てをされている先生方のお話がリアルでとても身にしみた。たくさんの先生のお話が聞けて良かった。

医学生におけるワークライフバランス、キャリア意識に関するアンケート調査結果は、本誌P33参照

4) 長崎県女性養成医のキャリアサポート事業

養成医のワークとライフをきいてみよう!(全2回)



第1回 ~ロールモデル探し~

対象：将来長崎県養成医として離島・へき地で勤務する義務を持つ、長崎大学医学部・佐賀大学医学部・川崎医科大学の地域枠の女子学生と、自治医科大学の女子学生、初期研修の女性医師の合計46名。

日時：2022年6月18・19日、6月25・26日(土・日) 6グループが順に各90分

<プログラム>

- ① 開会挨拶、センター取組紹介 メディカル・ワークライフバランスセンター センター長 南 貴子 先生
- ② 挨拶、県医師会取組紹介 長崎県医師会 常任理事 瀬戸 牧子 先生
- ③ 先輩医師紹介
- ④ 意見交換会



大村市
出口小児科医院
北條 奈美 先生



大村市
出口小児科医院
神田 二美枝 先生



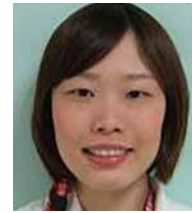
長崎医療センター
産婦人科
山口 純子 先生



長崎大学病院
消化器内科
北山 素 先生



長崎県杵岐病院
内科
古里 綾佳 先生



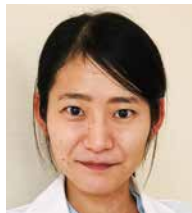
長崎県対馬病院
小児科
春日亀 千寿 先生



長崎県五島中央病院
産婦人科
小屋松 加奈子 先生



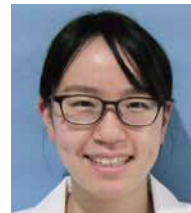
長崎県上五島病院
産婦人科
久米 可奈子 先生



長崎県上五島病院
内科
若松 亜里紗 先生



長崎県上五島病院
外科
山口 彩 先生



長崎県対馬病院
小児科
船原 知香 先生



長崎川棚医療センター
総合診療内科
川原 知瑛子 先生

2021年度より、将来のワークライフバランスに関する不安を減らし、離島医療の魅力・離島の楽しさを感じてミッションコンプリートしてもらうことを目的として「養成医のワークとライフを聞いてみよう!」オンライン会を行っています。

パートナーとの出会いから結婚・妊娠・出産・育児休業・子育てのこと、研修病院選び、離島診療、専門医取得、医局入局についてなど、義務年限中に想定される内容の質問に対して、先輩医師よりご自身の経験や周囲の女性医師の状況を交えながら、丁寧に答えていただきました。

参加した自治医科大学の学生より「他県の同級生に聞いても、このような取り組みをしているのは長崎県だけで、有り難く思います。」との発言があり、企画して本当に良かったと感じました。

参加者41名(女子医学修学生38名、女性研修医3名)

参加者の声

- 「学生時代の計画とは全く違う生活をしている」というお話を聞いて少し安心した。
- 毎年、質問したいことなど変わってくるので、また次回も参加できることを楽しみにしている。
- 先生方や、同じ立場の学生と、女性のための空間でお話ができ、妊娠・出産やパートナーのことなど非常に参考になった。
- 「養成医は地域の宝である」とのお言葉に救われた。将来に希望を持ってこの先実習や勉学に取り組んでいきたい。
- 養成医の先生方が医師としてもひとりの人間としても、充実した生活を送られていることが伝わった。養成医への道に誇りをもって、前向きに頑張れそう。

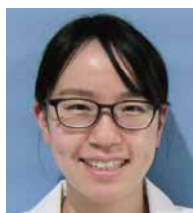
第2回 ～専攻医と話そう!～ **NEW**

対 象：将来長崎県養成医として離島・へき地で勤務する義務を持つ、長崎大学医学部・佐賀大学医学部・川崎医科大学の地域枠の女子学生と、自治医科大学の女子学生の4・5・6年生、初期研修の女性医師の合計21名。

日 時：2022年11月13日、27日(日) 2グループが各120分

<プログラム>

- ① 開会挨拶、センター取組紹介 メディカル・ワークライフバランスセンター センター長 南 貴子 先生
- ② 先輩医師紹介
- ③ 意見交換会



長崎県対馬病院
小児科
船原 知香 先生



長崎県上五島病院
内科
松本 泰葉 先生



長崎県上五島病院
外科
山口 彩 先生



長崎医療センター
産婦人科
山口 純子 先生



長崎医療センター
産婦人科
志田 泰一朗 先生

2回目は、内科・小児科と、外科・産婦人科の専攻医の先生にご参加いただき、120分間、じっくりと意見交流会を行いました。

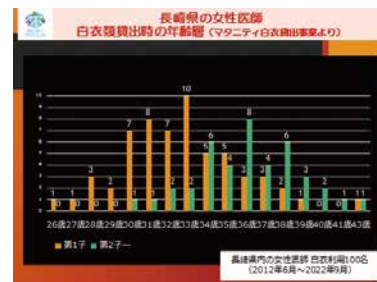
離島での専攻医研修について、初期研修病院選び、専門とする診療科選び、サブスペシャリティのこと、当直や拘束のこと、島外に出かけることができるか、島内での過ごし方、妊娠・出産のタイミング、大学医局への入局、出身大学による違い、義務年限修了後の働き方についてなど、答えていただきました。

離島での診療のなかで、内科・小児科は専門医取得に必要な症例はおおむね経験できること、外科・産婦人科は本土での研修が必要であること、診療科によって学会発表や論文が必須であることを知りました。また対馬・上五島のどちらの病院も全科当直で、緊張感を持ちながら経験を積んでいけること、どちらの病院も女性医師が増えており、それによる楽しさも増えていることがわかりました。

センターからは、マタニティ白衣貸出事業から判明した女性医師の貸出時(妊娠)年齢の最新版、研修医・専攻医期間中に認められている休暇について、養成医の育休取得・短時間勤務と義務の延長についての情報を提供しました。

年齢も近い専攻医の先生との対話で、参加者は、将来のキャリアプランのヒントになった様子でした。

参加者7名(女子医学修学生6名、女性研修医1名)



産休・育休取得の期間

- ★研修医：3か月までの休暇は研修継続
- ★専攻医：6か月までの休暇は研修継続
- ★養成医は育休で義務延長
- ★短時間勤務は義務延長しない

参加者の声

- 初期研修後の島での働き方を少しイメージすることができた。島は十分自己研鑽できる環境であることが知れた。自分の意欲を持って学びたい。
- 今回は学年の近い先生方のお話が聞けて前回とは、また違ったお話を聞くことができ良かった。
- 様々な科の専門医の先生方とお話できて、またいろいろな制度について教えていただき、非常にためになった。
- 少人数で気軽にお話しさせていただくことができ良かった。

5) アカデミック キャリアアップへのアドバイス

長崎大学病院で臨床に携わる医師の女性教員比率は、20%を超えています。しかし、その多くは「助教」や「助手」であり、「教授」「准教授」「講師」の女性は依然として少ないままです。

2019年6月、長崎大学病院に在籍する女性教員のうち、「准教授」と「講師」の先生に、キャリアアップへのアドバイスとして【やる気をもって挑む必須項目】【女性教員比率を上げるために必要なこと】を伺いました。

部局別女性教員数および比率-抜粋 (2022年度)

	教授		准教授		講師		助教		助手		計	女性計
	男女	女	男女	女	男女	女	男女	女	男女	女		
長崎大学 総計(人)	310	43	308	69	70	14	414	143	45	14	1,147	283
女性比率(%)	13.9		22.4		20.0		34.5		31.1			24.7
生命医科学域(医学系) 小計(人)	37	2	32	3	12	1	47	14	0	0	128	20
女性比率(%)	5.4		9.4		8.3		29.8		0.0			15.6
病院 小計(人)	18	3	16	2	53	11	176	57	44	14	307	87
女性比率(%)	16.7		12.5		20.8		32.4		31.8			28.3

やる気をもって挑む必須項目とは

- 業績や実績を上げる!まず「論文作成(英文・和文)」や「科研費の獲得」
- 学位や専門医を取得する!

他には、

- 上司の理解:ダイバーシティマネジメントの重要性を理解し、強いリーダーシップで後押ししてもらう
- 同僚の理解
- 家族の理解:「働くことで、仕事か家事の一方が疎かになるのではなく、仕事により私自身が楽しく輝けることは、家族にも良い影響を与える」「職場や社会から必要とされている人材である」ことを家族、特にパートナーに理解してもらい、協力をお願いする
- 時間制約がある自身への心構え:「公共サービスや職場のサポートを調べて利用する」「自分ができるところを探して、役立つ仕事を引き受ける」「職場でカバーして助けてくれている周囲への感謝の気持ちを持つ」

今後、女性教員比率を上げるために必要なことは

- 決定権を持つ上層部に女性が在籍する
- 多面的な評価、採用基準、勤務形態(勤務時間など)の見直し
- 職務(臨床・研究・教育・組織運営など多岐にわたる)の見直し、分担、効率化
- 学生の頃からの教育
- 各個人が、臨床の第一線から外れないように、サポートを利用しながらキャリアを継続して自信を持つ

後輩へのメッセージ

近年、教授に就任された3名の先生から後輩へのメッセージをいただきました。 **NEW**

Q. アカデミック・キャリアアップに関して、最も大事だと思うことはなんですか。



赤澤 祐子 先生

医歯薬学総合研究科 医療科学専攻 生命医科学講座 組織細胞生物学 教授
長崎大学医学部卒業:2000年(平成12年)、教授在職期間:2022年～現職

A. 目の前にあることに真摯に取り組むこと。自分に向いているものを見極めていくこと。先輩・後輩に関わらず、助言をしてくれる周りの人を大切にすること。

私は好きなことをしていたら、いつの間にかここまで来ました。たとえ、今好きなことが分からなくても、目の前にあることに真摯に取り組むこと、自分に向いているものを見極めていくこと、その積み重ねがキャリアアップにつながるのだと思います。働き方に関しては海外留学で学んだことがあります。長時間労働をするよりも適度な睡眠・休養を取ったほうが、サステナブルな仕事ができるということです。当たり前ですが、なかなか忘れがちですね。アカデミックな仕事は一緒に働くダイバーズな人々との“集合知能”によって発展していくものと考えます。先輩・後輩に関わらず、助言をしてくれる周りの人を大切にすることが大事だと思います。



松島 加代子 先生

長崎大学病院 医療教育開発センター 医科卒後研修部門 医師育成キャリア支援室 キャリア支援室長 教授
長崎大学医学部卒業:2003年(平成15年)、教授在職期間:2021年～現職

A. 「共育」のこころ

「共育を愉しむ,ALL長崎でつながる」これは、私自身が教授職に就いたときに掲げたモットーです。医療・医学に関わる皆さんは、どんなに年齢・経験を重ねてもなお、日々、学びがあります。教えている学修者や患者さんから教わることも多々あります。学ぶ姿勢を持ち続けていれば、視野が広がり、他者とのつながりが強固となり、お互いを尊重する心と楽しい雰囲気生まれます。また、このページに書いていらっしゃる各先生のお言葉は、私もまさに感じてきたことです。自分が信じた道を突き進むだけでなく、予定外の方向に向かったとしても必ず自身の糧になると思ってしなやかに対応することを心がけています。周囲の方が自分のことをより客観的に見てくださり導いてもらったなと振り返ることもあります。何事も、どんな状況をも、共に学び、愉しんでください。



福島 千鶴 先生

長崎大学病院 臨床研究センター 副センター長 教授
高知医科大学(現:高知大学医学部)卒業:1989年(平成元年)、教授在職期間:2022年～現職

A. 自信を持てるよう努力すること。周囲の意見に耳を傾けること。

私は、臨床能力、臨床と臨床研究センターの業務の両立に自信が持てず、上司から「上を目指せ」と言われても、「無理だ」と言い続けていました。決心がついたのは、臨床研究センターで10年以上働くうちに、院内にいる医師の中で、臨床研究に関する指針を読んだ回数は自分が一番多いはず、臨床研究で生じる問題は私が一番知っているはず、と思えるようになったからです。努力を続けていれば、必ず自信につながります。また、自分の狭い視野を先輩・上司が広げてくれます。「無理です」と意固地にならずアドバイスを聴くことも大事だと自身の反省も込めてお伝えします。頑張ってキャリアアップする若い人たちが増えているのを嬉しく思うと同時に、私も決心して良かったと思っている今日この頃です。

2 両立サポート

育児や介護などのライフイベントを迎えても、安心して働けるようサポートしています。

1) 長崎医師保育サポートシステム

長崎県の受託事業「あじさいプロジェクト」の一環として、長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターが主な運営を行い、長崎県医師会は協働推進団体として連携して活動を行っています。

県内の子育て中の医師が仕事と育児を両立できるように、育児支援を必要とする医師と保育サポーター(子育ての援助ができる方)を、コーディネーターがマッチングすることで、医師の仕事と子育ての両立や就労継続を支援することが目的です。

対 象：長崎、県央、佐世保・県北、県南、上五島、壱岐医療圏に居住、働く医師(勤務医・開業医・研修医など)。

※保育サポーターの登録数が少ない地域もありますので、利用を希望する際はセンターへご相談ください。

<診療科別の医師数>

2023年2月1日現在

診療科	登録医師と パートナーの医師数(名)	2023年2月1日現在	
		長崎大学病院勤務	長崎大学病院以外に勤務
消化器内科	10	5	5
整形外科	9	3	6
麻酔科	8	6	2
循環器内科	8	4	4
形成外科	8	1	7
腫瘍外科	6	3	3
産科婦人科	6	1	5
泌尿器科	5	3	2
精神科神経科	3	3	0
眼科	3	2	1
呼吸器内科	3	2	1
脳神経内科	3	1	2
耳鼻咽喉科	3	1	2
皮膚科・アレルギー科	3	0	3
小児科	3	0	3
放射線科	3	0	3
腎臓内科	2	2	0
救急科	2	2	0
内分泌・代謝内科	2	0	2
血液内科	1	1	0
医療教育開発センター	1	1	0
移植・消化器外科	1	0	1
脳神経外科	1	0	1
心臓血管外科	1	0	1
総 計	95	41	54

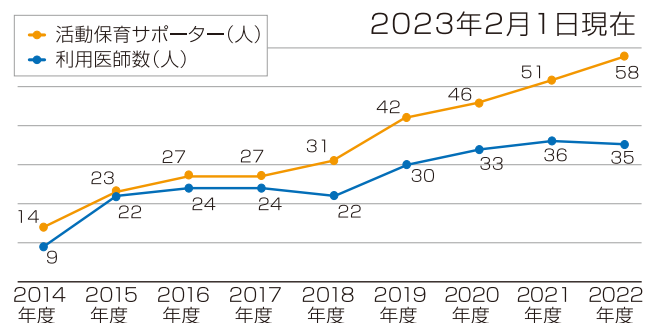
<活動実績>

2023年2月1日現在

	医師(名)	保育サポーター(名)
2022年度新規登録数	14	27
登録総数	63	244
うち2022年度利用・活動実数	35	58
資料請求数	15	44

<利用医師・活動サポーター推移>

2023年2月1日現在



<主な活動内容>

◎活動回数の月平均は202回で、毎年増加しています。

◎習い事の送迎など、定期での利用も増えています。

- ・ 医師宅やサポーター宅での保育
- ・ 保護者在宅中の乳児見守りや保育、沐浴の補助
- ・ 送迎のみ(保育園・幼稚園・習い事・学童等)
- ・ 保育園・幼稚園・学童へお迎え+その後の保育
- ・ 病児保育(医師宅での病児保育等)
- ・ その他(外遊び、外出先や行政施設での保育等)など
+保育と合わせて家事支援(掃除、洗濯、食事作り等)を行う場合もあります。



利用医師の声

- クリニックを開業しており、生後5週目から診療中の保育を依頼しました。4人の保育サポーターさんがシフトを組んで、1人あたり週に半日のサポートを2、3回担当しています。声掛けやお歌、赤ちゃん体操、遊びなども豊富で、親子2人で過ごすよりも良い刺激が多いと感じます。サポート中の様子も細かく教えていただき、大変ありがたいです。(女性医師/週6回定期利用)
- 医師の夫と双子を含む3児と私の5人家族で、双子出産後から利用しています。事前に民間や自治体の情報も収集しましたが、業務内容が1番フレキシブルで安心感もあり、利用しようと思いました。荒れた家が家事支援で定期的リセットされ心身共にストレスが激減しています。今後も状況に合わせて相談しながら長く利用したいと思っています。(女性医師/週2回定期利用)

活動保育サポーターの声

- 週1回、医師宅で1歳2か月の双子ちゃんのお世話と家事支援をしています。大切なお子さん達をお預かりするという緊張感は常にありますが、可愛いお子さん達との楽しい時間を大事にし、日々成長していく姿を見守りながらサポートできることに感謝しています。
- 5歳のお子さんの幼稚園のお迎え、習い事の付添い、家では夕食を作りやお掃除などお手伝いしています。明るくキュートで人懐っこいお子さんと、かわいいワンちゃん達、温かなまなざしで接して下さる先生方に救われ、この貴重な時間に感謝しています。

<医師が支払うシステム登録料>

	年度(税込)/1家庭
4月~9月に新規登録、または更新登録	3,000円
10月~3月に新規登録	2,000円

システムへ新規登録または更新登録する医師は、システム登録料を長崎大学に納付してください。
※登録料は、システムの運営費の一部として使用します。

<保育サポーターに利用医師が支払う報酬(標準単価)> ※双方の話し合いで決めます。

		1時間単価(税込)/1人			1回当たり単価(税込)/1人
一般保育 月~金	9:00~18:00	1,000円	お泊り(土日祝も同額。 時間帯は双方の合意による。)		10,000円
	上記以外	1,200円			
一般保育	土日祝	1,200円	飲食 (保育サポーターが用意した場合。)		500円
病児・病後児保育		一般保育単価+500円			

- ※2人目からは半額(病児・病後児保育の場合は原則として半額としない)
- ※保育サポーターの移動時間は報酬の対象としない(交通費は利用医師が負担)
- ※活動時間は、原則1時間未満は1時間、1時間以上は30分刻みで計算する
- ※当日のキャンセルは予定報酬の半額を利用医師が負担

DVD視聴による保育サポーター説明&研修

保育サポーターとして活動するためには、1回以上の保育サポーター研修会の受講が必要です。感染症拡大防止のため、今年度も個別に行いました。

2020年度から、自宅での研修用DVDの視聴も可能です。 

開催月：2022年7月、11月 ※受講者の希望に合わせて対応します
 場 所：長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター または 自宅受講
 受講者：45名(新規登録数28名 登録率62%)

<DVD視聴内容>

- ・ システムの概要説明
 南 貴子 長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター センター長
- ・ 研修①「子どもの心理的サポート」
 吉田 ゆり 先生 長崎大学 ダイバーシティ推進センター センター長
 長崎大学教育学部 教授
- ・ 研修②「こどもの応急処置～病院へ連れていく前に～」
 長谷 敦子 先生 長崎大学病院 医療教育開発センター
 長崎外来医療教育室 室長・教授

保育サポータースキルアップ研修会

感染症拡大防止のため中止していたスキルアップ研修会を3年ぶりに開催しました。もしもの事故に備えて、サポート中に役立つ知識の習得・スキルアップのため、座学と人形を用いた実践形式で学びました。

対 象：保育サポーター(登録済みの方)
 日 時：2022年9月5日(月)14:00～16:00
 場 所：長崎県医師会館 救護室
 テーマ：「乳幼児の一次救命」
 講 師：樺山 智子 氏 日本赤十字社長崎県支部
 参加者：14名



保育サポートシステム通信2022年度号 発行

広報活動の一環として、また医師と保育サポーターのみなさまへの情報発信として作成しています。



2) 当直中の育児支援

長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターでは、2020年度より子育て中の女性を対象とした「当直リスタート支援」を開始しました。当初は、育児休業等から復職した女性医師のキャリア形成のため、当直業務の再開を支援する目的で事業を開始しましたが、子育て中の男性医師や、すでに当直業務を行っている女性医師も利用できるよう、2021年9月から、支援対象者をすべての子育て中の医師に拡充し、「当直中の育児支援」と改称して事業を行っています。

長崎大学医師会から寄附をいただき、保育サポーターへ支払う報酬を補助することで、負担感を軽減します。

また、「長崎医師保育サポートシステム」を活用することで、子育ての共有を推進し、医師が子育てをしながらも当直業務を遂行できる体制を整えます。

対象：長崎大学病院に勤務する子育て中の医師

<今後の展望(女性医師が当直を再開する場合)>

- ① 女性医師自身が、当直業務への不安を払しょくできる
- ② 医局の当直の分担の偏りを是正できる
- ③ 関連病院で勤務する際にも、当直業務を担当できる自信が付き、医局の人事における懸案事項も少なくなる
- ④ 夫の家事・育児参画を促進できる
- ⑤ 後輩の女性医師や家族に、子育て中でも当直業務の遂行が可能であり、当たり前という姿勢が伝わる
- ⑥ 家事や育児を他人に任せられることがわかり、キャリアを継続できる

<実績>

支援利用:4名(男性医師4名)



告知ポスターの概要:

- 対象:** 長崎大学病院に勤務している子育て中の医師
 - 性別問わず可能
 - パートナーが主婦・主夫でも可能
- 支援期間:** 2020年度～2024年度までの5年間
- 支援内容と補助額:**
 - 医師が支払った、保育サポーターへの報酬および雑費(交通費・食費等)を補助
 - 子ども1人につき上限1万円/年
 - 子ども2人以上の場合は、1人につき5千円を加算
 - ※各年度申請していた予算を全額執行した時点で、申請の受付を終了。
- 申請方法:** まずは、センターへお問い合わせください。
 - メディカル・ワークライフバランスセンター 内線:7979
 - 詳細や必要書類、手続き等のご説明をいたします。
 - お気軽にお問い合わせください。
- 支援条件:**
 - 医師が、当直(日直・宿直)を現状からステップアップして再開
 - 例: 当直無しの状態から日直・宿直に入る
 - 例: 日直のみの状況から宿直に入る
 - 医師が、当直を継続
 - 例: 当直回数を増やす
 - 例: 当直回数の維持
 - 当直の日の子どもの保育や家事は「長崎医師保育サポートシステム」を利用

利用者の声:

- 期前医師の声:** 「当直中の育児支援」知り、早速利用しました。以前より保育サポーターの方には子ども達をすごく可愛がっていただき、大変助かっていました。当直日に聞わず週1～2回程度お世話になっていましたが、今回、当直と重なった日に利用し、費用面でも大変助かりました。
- 期前医師の声:** 「当直中の育児支援」を利用しています。主に平日、私の帰りが遅くなる時や、当直の際に育児支援をお願いしています。子どもをお風呂に入れる際などの見守りや、夕食のサポート、翌い事の送迎など大変助かっています。子ども達も聞いて、「今日はサポーターさんこないのかな」と来ていただける日を楽しみに待っています。

お問い合わせ: メディカル・ワークライフバランスセンター 内線 7979 あじさいプロジェクト

利用者の声

- 「長崎医師保育サポートシステム」を平日夕方、週4日利用しています。私も妻も帰宅時間が遅くなりがちで保育園・学童のお迎えに間に合わないのですが、保育サポーターさんのおかげでとても助かっています。また、子ども達が懐いておりとても頼りにしています。「当直中の育児支援」サービスを利用する前は、私の当直時の妻の負担が大きかったのですが、利用するようになってからは時間的にも心理的にも負担が減って、子ども達と向き合う時間が増えました。今後も利用させていただきます。
- 夫婦共に手術や勉強会で遅くなることが度々あるので、日ごろから「長崎医師保育サポートシステム」を利用しています。私が当直になると、必然的に妻は時間内に仕事を終えて帰宅しバタバタとしなないといけません。保育サポーターさんにお手伝いいただけるので余裕が生まれます。また、子どもが3人いるので、妻と保育サポーターさんの目が届いて、いつもより安心感があります。保育サポーターさんと役割を分担するので家事も捗るとのことです。当直の際に「当直中の育児支援」サービスを利用し、多くの方に「長崎医師保育サポートシステム」の良さを知っていただければと思います。

3) イブニングシッターサービス

大学病院内で夕方から実施される会議・勉強会等へ参加を可能にするために、託児の手配を行います。院内で参加するWebでの会等に参加する場合も利用できます。

2021年度、2022年度と2年間、COVID-19の影響で、利用はありませんでした。

<利用状況>

2023年2月1日現在

2022年度	実施数(名)
利用者数(延べ)	0
託児数(延べ)	0

<実施概要>

・実施日時：月・火・木・金曜 17:30～20:30
水曜 19:00～20:30
(土日祝・年末年始を除く)

・託児場所：長崎大学病院内
・対象者：長崎大学病院教職員
・対象児：乳児(3か月以上)～小学生まで ※1日の定員:6名
・利用料：無料

【託児場所】



勉強机や簡易ベッドの貸し出しも行っていきます。



お子さんの年齢に合わせて遊び道具を準備します。シッターさん手作りのおもちゃもあります。

4) 両立ガイドブック(4種類)

あじさいプロジェクトWebサイトのお問い合わせ・お申し込みフォームから資料請求ください。



産産・育児のABC～働くあなたのために～
(長崎大学職員限定)



介護準備のABC～働くあなたのために～
(長崎大学職員と長崎県内病院限定)



両立応援HAND BOOK～ママドクターの復職のために～
(長崎県内の女性医師限定)



長崎県に勤務する男性医師の育児休業取得者コメント集vol.2
(長崎大学職員と長崎県内医師限定)

5) マタニティ白衣・スクラブ・パンツ貸出

妊娠中も快適に働けるように、マタニティ白衣・スクラブ・パンツを無料で貸し出ししています。

連携機関である長崎県、長崎大学病院の補助で、人気色のスクラブ(パープル)とパンツ(ネイビー)を新しく購入・補充しました。**NEW**

対 象：長崎県内の医師および長崎大学病院で医療に従事する職員など

2012年6月から貸出事業を始め、約11年間で、利用医師は延べ100名を超えました。

<利用者状況>

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (4月~1月)	合計
利用者数	3	6	3	12	15	14	14	21	25	26	19	158
うち医師数	3	3	3	9	13	7	9	8	18	18	11	102
うち長崎大学病院 以外の医療機関の 医師	-	-	-	1	1	3	6	1	9	9	5	35

100名超え!

手術部内用マタニティパンツを導入 **NEW**

「手術時に着用するマタニティパンツがほしい」との要望がセンターに届き、長崎大学病院の手術部が迅速に対応されました。

手術部内用マタニティパンツを導入しました

手術部内での着用希望の方は、ご自由にご着用ください。



- ・4階手術部女子更衣室に5着準備しています。
- ・手術部内で業務等行う場合は、自由に着用可能です。
- ・手術部退室時(更衣後)は、通常のスクラブと一緒にランドリー入れに入れてください。



パンツの生地は薄くて軽く腰回りはリブ生地です。裏地は、通気性の良いメッシュ素材、ウエストのゴムはボタンで調整ができます。

2022年5月 手術部

レンタルの流れ

①あじさいプロジェクトWebサイトから、申込書をダウンロードし、メール提出。

<長崎大学病院の医療従事者の場合>

- ②センターで試着後、その場で受け取る。
- ③利用期間終了後、「レンタル終了」と明記して、院内便でセンターへ返却する。

<長崎大学病院以外の医師の場合>

- ②センターから宅配便で受け取る。
- ③利用期間終了後、クリーニングを済ませて宅配便でセンターへ返却する。

※宅配便の料金は、センターが負担します。



マタニティ白衣・スクラブ・パンツの特徴

あじさいの花のロゴマークが、白衣とスクラブは左腕に、パンツは左足に付いています。



白衣：軽量性とストレッチ性に優れた素材



スクラブ A：両脇はリブ生地で優しくフィット



スクラブ B：お腹もお尻も隠れる長めの丈



パンツ：お腹周りはリブ生地で、ボタンでサイズ調節可能

利用者の声

- 第2子の妊娠で利用させていただきました。この白衣によって、ゆったりとしたお腹で通常診療を行うことができました。快適でした。申し込んでから迅速に対応してもらえて、貸出や返却の方法がスムーズで利用しやすかったです。マタニティ白衣は、妊娠された医師の強い味方だと思います。(長崎市勤務医)
- 申込後すぐに対応いただき大変助かりました。特にマタニティパンツを愛用させていただきました。締め付けず、動きやすく、とても快適に仕事を続けることができました。サイズ調整も簡単でした。他のスタッフにもぜひ勧めたいと思います。(諫早市勤務医)
- 妊娠22～38週まで、白衣、スクラブ、パンツをお借りました。新型コロナウイルス感染予防対策で換気をするために常時窓が開いており冷房が効きにくい環境の中でも、あまり暑さを感じず快適に仕事をすることができました。また、問い合わせ時の返信から在庫確認、実際の発送までも早く、返却時用の伝票や封筒まであらかじめ同封されており、至れり尽くせりの対応が大変助かりました。このサービスがレンタル料、送料ともに無料で受けられるとは、長崎県で働いていて良かったなと思いました。(佐世保市開業医)

6) すべての医師を支援しています **NEW**

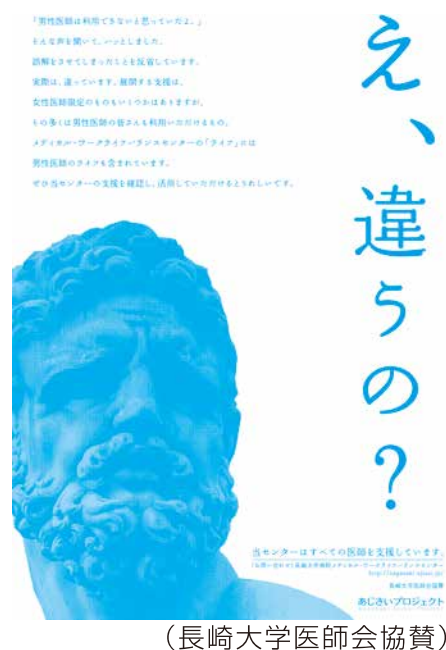
センター開設の発端や取り組みの優先順位が、女性医師の離職防止に繋がる支援が当初多かったため「女性医師を支援するセンター」と認識されがちですが、性別に関わらず「すべての医師を支援するセンター」として周知するために、ポスターやチラシを作成しました。

7) 長崎県に勤務する男性医師の 育児休業取得者コメント集Vol.2 **NEW**

長崎県の病院で育児休業を取得した男性医師へインタビューやアンケート調査を行い、コメント集にまとめました。

今回作成した、コメント集Vol.2では、新しく創設された「産後パパ育休」を利用した医師の経験談や産後パパ育休(生後8週以内)と育児休業を組み合わせる父親が柔軟に(最大4回)分割取得するイメージ図や改正ポイントの一部を掲載しています。

男性の育児休業取得を推進し、安心して仕事と生活が両立できる職場づくりの参考に活用ください。



(長崎大学医師会協賛)

Q.育休取得して、良かったことは?

A医師 1児のパパ(30代)・31日間取得

妻が働きだす前のタイミングで育児休業を取得し、有効利用して求職活動や保育園の見学等を夫婦2人で行うことができた。

B医師 1児のパパ(30代)・5日間取得

1日中息子と過ごすことができ、日頃妻が日常的に行っていた業務を一緒に行うことで、その大変さを知ることができた。また、その大変さを知ることにより育児に関わっていかねばならないと強く感じられたことが大きかった。

C医師 3児のパパ(30代)・25日間取得

育休を機に、子ども達や妻目線での一日の過ごし方を知ることができた。これまでうまくイメージできていなかったと思う。仕事と家庭の両立のためにも、想像力が大事だと思う。良いきっかけにしたい。

D医師 1児のパパ(30代)・30日間取得

妻の退院後すぐに育児休業を取得したが、産後しばらくは妻の体調が優れないことが多くこの時期に取って良かった。また、慣れない育児は緊張の連続で悩んだり疲れたりもしたが、そういったことも妻と共有し理解することができた。育休が明けても家での1日のスケジュールや、やるべきことを把握できているし、なるべく早く帰ろうと思ひ、率先して育児や家事に取り組むことができた。家族3人で過ごせたのは貴重な時間だったと今でも思う。

E医師 4児のパパ(40代)・18日間取得

そうしないと物理的に家の中のことが回らない。「良かった」というよりも「必須」。



参考:長崎大学病院に勤務する男性職員の育休取得数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (4月~1月)
取得数	2	3	0	0	7	3	9	22 (5)
うち医師数	0	0	0	0	2	1	4	9 (4)

()は産後パパ育休内訳



3 長崎県内病院の取り組み

長崎県内の病院における、ワークライフバランス実現に向けた取り組みを紹介しています。

【長崎大学病院の取り組み】

1) 医局長訪問

新任の医局長を訪問して、質問票の聞き取りとセンターの活動案内を行い、協力をお願いしました。再任の医局長には、質問票をメールで回答していただき、センターの活動案内は資料を院内便で配付しました。

医局長訪問

訪問期間：2022年5月11日～5月19日(6日間)
訪問先：診療科や中央診療施設の新任医局長11名
調査対象：診療科や中央診療施設の医局長27名
新任11名・再任16名
男性22名・女性 5名



放射線科 大木 望 先生

消化器内科 橋口 慶一 先生

<育児・介護休業法の改正>

2022年4月から事業主に対して「育児休業を取得しやすい環境整備・個別の周知・意向確認措置の義務化」「有期労働者の育休取得条件緩和」が課せられました。2022年10月からは「産後パパ育休(出生時育児休業)」が創設、「夫婦交代での取得を可能にすることが主な目的で、産後パパ育休と併せると男性側は最大4回、分割した取得が可能」になります。

長崎大学の制度も国に準じて改定がされており、病院人事企画課では「産休育休前説明会」を月1回、女性職員・男性職員に時間を分けて実施しており、妊娠・出産等を申し出た職員に対し、制度周知と意向届の回収を開始しています。出産予定のある職員(配偶者が出産を控えている男性職員も対象)は説明会への参加が必須ですので、周知をお願いします。

また、センターでは「出産育児のABC」冊子の1頁に掲載されている「出産・休暇スケジュール」で該当職員の休暇希望日を確認し、「男性医師の育児休業プランニングシート」をご活用いただくことをお勧めします。

男性育休のこれまでの経験談より、2週間～1か月程度育休を取得すると、生活に変革が生じるので、2週間以上の取得を推奨しています。出産直後の1週間程度の期間に取得希望であれば、長崎大学では「特別休暇(配偶者の出産休暇2日間や男性職員養育休暇5日)」を利用することができます。年次有給休暇が多く残っている方は、利用しても良いかもしれません。

質問票の集計抜粋:医局員でこれまでに育児理由の休みを取得した男性医師は15人程度。

(参考)2021年度までに長崎大学病院で育児休業を取得した男性医師は7人。

男性医師の育休取得実績があるのは5診療科(19%)、うち1診療科では複数人が取得済。

取得期間は1日～2週間程度が多く、最長でも1か月(院外男性医師2か月実績あり)程度。

(所感)

今後さらに性別を問わず、育休制度の周知と取得推進が必要です。夫婦で家事育児の共通認識を持つ、産後うつ(10人に1人)を防ぐ、復職に向けた準備等の目的のために、計画的かつ有意義に育休期間をお過ごしください。

<女性医師実態調査の結果>

毎年、長崎県に報告する女性医師実態調査(5月1日時点)では、医局所属の女性医師数は調査開始の2014年度の350名弱から漸増し、2019年度以降は400人超で推移しており、育児休業中の女性医師は34人で全員復帰意思がありますが、離職中の女性医師12人のうち4人は復帰意思が確認できない状況でした。長崎大学病院に勤務する女性医師は概ね180人前後(男性医師は400人前後)で推移、他院の女性医師数は漸増しています。長崎大学病院の女性教員数は2020年度から80人前後(男性医師は250人前後)で推移しています。

長崎大学病院に勤務する各医局の医師数で、女性が男性より多いか同数、女性医師率50%以上は、産科婦人科(↓)皮膚科アレルギー科(↑)リハビリテーション科(-)の3科。女性が男性よりやや少ない科、女性医師率40%台は、眼科(↓)小児科(-)放射線科(↓)麻酔科(-)形成外科(↓)第一内科(↑)の6科。30%台は、腎臓内科(↓)消化器内科(↓)耳鼻咽喉科(↓)の3科。それ以外の15診療科の女性医師率は30%以下でしたが、すべての診療科に女性医師が勤務していました。

女性教員のいない診療科は、整形外科(7年間不在)、脳神経内科(調査開始後3年間不在)の2科のみでした。※()内の矢印は昨年度との比較 ※本誌P25下の診療科別医師の男女割合グラフ参照



長崎大学病院に勤務する女性医師177人のうち、62人は、小学生以下の子どもがいました(子育て中の女性医師率は35%※分母は女性医師数)。

◎産科婦人科は、女性医師率1位(64%)、女性教員率1位(71%)、子育て中の女性医師率2位(32%※分母は医局員数)と上位にランクインしており、昨年同様に女性医師が一番多く、かつ、活躍中です。

小学生以下の子どもがいる女性医師62人のうち、多くは当直免除されていますが、緩和して当直(6人)、緩和なく当直(3人)、緩和して日直(14人)、緩和なく日直(12人)している状況があります。子育て中の女性医師が、これまで免除されていた日直・当直の再開をサポートするために、2020年度より、センターでは「当直中の育児支援」を行っています。子育て=女性の役割ではなく、夫婦で子育てや家事を分担し、保育支援を活用することで、女性医師も医局業務を分担し、キャリア形成を行うことを推奨する目的です。

子育て中の女性医師が増えて、当直業務の運営に支障が出ている医局や、異動先での当直シフト作成に苦慮している医局は、個別にパートナーや周囲の協力体制を確認して、医局員が納得できる形態での緩和・免除を検討してください。

子育て中の女性医師も、可能な範囲で日当直を行い、パートナーや家族、家族以外の保育支援者がバックアップをする体制を整える事が第一歩です。医局長の先生は、医局員の個別の事情を良く聴き、取り巻く環境に配慮しながら、無理がないように、日当直完全免除から、徐々に以下のような対応への移行を進めてください。

- まずは週末の日直を月1回から始めてみましょう。
 - お子さんの年齢(2歳以上、3歳以上など)や生活環境も考慮のうえ、週末の当直、金曜の夜当直など連続勤務にならない当直を始めてみましょう。
 - バックアップ体制があれば、平日の夜の当直をしてみましょう。
- ※「長崎医師保育サポートシステム」では、子育て中の医師をバックアップする保育サポーター(有料)を紹介し、このシステムの利用料を補助する「当直中の育児支援」を行っています。本誌P19参照

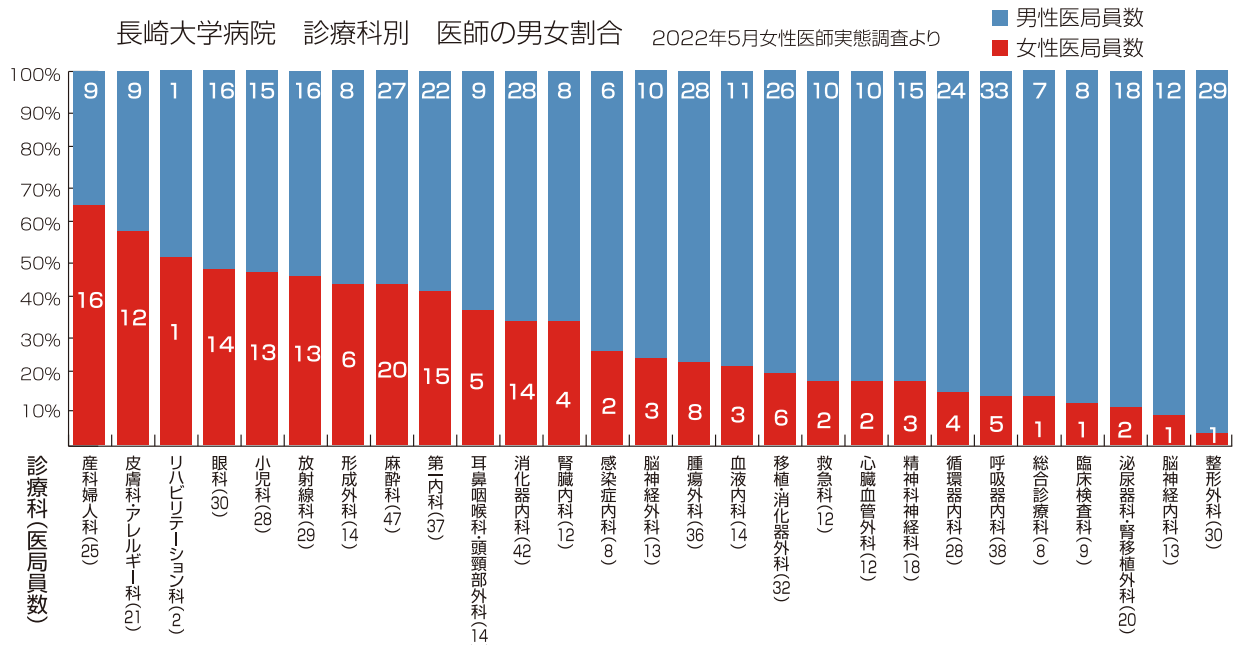
(所感)

新任の医局長の先生方にセンターの事業内容を説明するにあたり①マタニティ白衣レンタル②男性育休取得推進③長崎医師保育サポートシステム&当直中の育児支援の3つについては、センターの根幹となる事業として丁寧に説明させていただきました。

男性育休取得については、取得する医師数は微増中ですが、教授・医局長それぞれに温度差があることを感じました。積極的な医局長、寛容な教授が多い中「男性が、育児のために、仕事を休む」ことが厳しい状況にある医局もありました。センターとしては働き方改革でチーム主治医制を確立して休業による欠員をカバーしやすくすると共に、男性の育休取得をさらに推進していきたいと思えます。

女性医師の活躍推進として、女性教員の割合を確認していますが、これからの教員になるべく博士号を取得しようとしている女性(男性)が少ない医局がありました。教員として活躍する機会を与えるために、性別に関わらず大学院進学・博士号取得も推奨していただきますようお願いいたします。

医師の長時間労働の改善が、医師をパートナーに持つ女性医師のフルタイム復帰、当直復帰につながると信じています。医師以外の職種のパートナーを持つ女性医師は、パートタイムで働く方が少なく、当直業務も行っていることが多いのは事実です。長い期間パートタイム勤務を継続している女性医師には、事情に配慮しつつもフルタイム勤務に復帰できないか、ご検討ください。





2) 仕事と介護の両立サポート 教職員相談会

現在、または将来の介護に不安を抱える教職員のみなさまに、仕事と介護を両立していただき、安心して仕事を続けていただけるようにサポートします。介護は突然やってくるものです。現在、介護に関わっている方だけでなく、介護で起こり得る可能性のある問題についてなど、情報収集の場として相談会を開催しました。

仕事と介護の両立サポート 教職員相談会(個別対応)

対象：長崎大学病院 教職員

日時：2022年7月8日(金)と

11月11日(金)の予約時間に合わせて

面談者：長崎大学ダイバーシティ推進センター

介護コンシェルジュ 内野 睦美 氏

場所：長崎大学病院 中央診療棟1階 面談室

参加者：3名

利用者の声

- 普段、自分の介護している状況など他者に(介護経験のない人)理解してもらうことは難しいと思っている。そのため職場では話すことがほとんどない中、専門の方に聞いてもらうことで気持ちが軽くなり、勇気づけられた。適切なアドバイスをもらい、相談会に参加して良かった。
- 先行きの見えない不安を感じていたところ、開催のお知らせを目にし、相談した。介護施設の定義や介護認定の区分、療養型の病院への転院、長崎大学における介護支援制度など、資料と共に丁寧に説明してもらった。自分たちができることが明確になり、不安を小さくする一歩になった。

令和4年度 長崎大学

仕事と介護の両立サポート 教職員相談会

現在、または将来の介護に不安を抱える教職員のみなさまに、仕事と介護を両立していただき、安心して仕事を続けていただけるようにサポートします。

介護の相談
介護の悩みからよつとした疑問、学内の介護制度等... 本学の「介護コンシェルジュ」へお気軽にご相談ください。

令和4年 **7/8** (金) 対象：長崎大学病院 教職員
11/11 (金) 場所：中央診療棟1階 メディカル・ワークライフバランスセンター 隣の面談室

個別対応ですので、事前には面談時間をご予約ください。ご希望の日時に変更も可能です。

【お問い合わせ】
主催：長崎大学 ダイバーシティ推進センター 長崎大学 ダイバーシティ推進センター
後援：長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター
TEL&FAX：095-819-7979 (内線：7979)
MAIL：info01@nagasaki-ajisai.jp

長崎大学 ダイバーシティ推進センター

誰かを支えるあなたを、支えます

介護コンシェルジュ

介護費用が心配... 介護保険ってなに? 介護の悩みを聞いてほしい... このような悩みは介護コンシェルジュが対応いたします! 介護の手続きはどこですの? 介護の相談どこへ行くの? 介護が突然崩れてしまったらどうしよう... 車椅子は購入? レンタル?

知りたい情報も、聞いて欲しい悩みも、介護コンシェルジュへ

個別に対応しております

ご相談・お問合せ
TEL: 095-819-2179
info01@nagasaki-ajisai.jp

長崎大学ダイバーシティ推進センターには「介護コンシェルジュ」が常駐しています。介護コンシェルジュは、介護福祉士・介護支援専門員(ケアマネージャー)の資格を持つ介護の専門家で、長崎大学で働く職員であれば誰でも相談ができます。現在介護中であるか否か、職種、勤務形態等は一切関係なく、介護状況に応じた「情報提供」や介護が気になり始めた時期、介護に直面している職員は「個別コンサルティング」が受けられます。相談は事前予約制です。「仕事と介護の両立相談窓口」へ、いつでもお申し込みください。



ダイバーシティ推進センター 介護コンシェルジュ 内野
mail:omoyai_soudan@ml.nagasaki-u.ac.jp



3) 病児保育施設 にじいろ

<概要>

保育日・時間：月～金曜日(お盆含む) 7:30～18:00

土・日曜・祝日、年末年始(12月29日～1月3日)を除く

※休業日:予約者がいない日の10:30以降および、

災害等で止むを得ず保育が困難である場合

対 象：長崎大学病院に勤務する職員のお子さん 生後3ヶ月から
小学校3年生までの病児

定 員：5名(病気の種類によってはお預かりの人数に制限があります。)

利用料：3,000円/1回(税込)

給 食：360円/1食(税込)お弁当の外注購入(食物アレルギー食・軟飯・
離乳食は対応不可のため持参)。

※その他、おやつ・ミルク、また、おむつは、持参か購入。

対象年齢が小学校3年生までに拡大、優先駐車スペースの確保、注文弁当業者
の変更がありました。 **NEW**

お問い合わせ：長崎大学病院 総務課 TEL:095-819-7217



<利用延べ人数>

2022年4月～12月

	利用人数(延べ)
4月	13
5月	9
6月	23
7月	15
8月	23
9月	15
10月	25
11月	23
12月	27
合計	173人

<年齢・職種別利用内訳>

2022年4月～12月

部局等	職 種	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	人数
病院	医師	3	5	0	0	0	0	0	0	0	0	8
	看護師	4	6	4	4	0	1	1	0	0	0	20
	事務職員	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	その他	2	3	0	1	0	0	0	0	0	0	6
合計		9人	15人	4人	5人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	35人

うち歯科医師
1名

※職種は登録時点、年齢は4月1日現在

利用者の声

- 数回利用して、とても利用しやすかったなので、また利用したいです!利用が少ない時期のためか、前日や当日でも予約が取れ、子ども1人に2人体制で見てくださり、安心でした。保育園に慣れるのに1週間位かかった子どもが、「にじいろ」を利用して3日目には、むしろ喜んで行きました。他の病児保育施設では診察後に預けるため、待ち時間が長いですが、「にじいろ」は2日目以降はスムーズに預けられて良かったです。院内にあるため安心して仕事ことができました。(医師)
- 2か月に1回ほど、利用しています。保育士の方が非常にやさしく、よく観察しながら保育していただき、子どもはすぐに「にじいろ」に慣れました。何かあれば院内の内線で連絡がある安心感や帰りもすぐ迎えに行けるので、ぎりぎりまで仕事ができ助かっています。別の病院でフルタイム勤務をしている妻に対して、私の大学院での研究や病院の当直、オンコール等のため、色々と普段からワンオペ育児を強いてしまっている状況が多いのですが「にじいろ」のおかげでパパが少しだけ育児に貢献でき大変ありがたいです。(医師)
- 「にじいろ」には毎月お世話になっています。同じ保育士さん方がいらっしゃるため子どもも慣れているのか、久しぶりの利用でも嫌がらずに登園してくれます。朝8時の出勤時に預けることができるため仕事に遅れずすみ、何かあればPHSに連絡いただけるため仕事に専念することができ、大変助かっています(気になる際はお昼休みに様子を見に行くこともあります)。また、少人数でしっかりと観察をしていただける上に、1日の保育記録も詳細に様子わかるため安心感があります。(医師)



4) あじさい保育園

<概要> 保育日・時間：月～土曜日 7:00～18:00(20:00まで延長可)水曜日は24時間
 対 象：長崎大学に勤務する職員のお子さん 0歳児(生後43日以上)から小学校就学前まで
 定 員：60名
 給 食：360円/1食(税込)お弁当の外注購入(食物アレルギー食・軟飯・離乳食は対応不可のため持参)。
 ※その他、おやつ・ミルク、また、おむつは、持参か購入。

注文弁当業者の変更がありました。 **NEW**

お問い合わせ：長崎大学病院 総務課 TEL:095-819-7217



あじさい保育園 職種別利用数

部局等	内訳	人数(※)
病院	医師	15
	看護師	5
	事務職員	2
	技術職員	1
	大学院生	1
病院以外	教員	1
	事務職員	1
合計		26人

うち女性医師9人

2022年12月31日現在

あじさい保育園 年齢層別利用児童数

クラス	収容定員	人数(※)
0歳	30人	8
1歳		10
2歳	24人	9
3歳		0
4歳	6人	0
5歳		0
合計	60人	27人

2022年12月31日現在

※1家庭で複数人の児童利用等により、人数には差異があります。

【長崎大学の取り組み】

5) 文教おもやい保育園

<概要> 保育日・時間：月～土曜日 7:00～18:00(月～金曜日は19:00まで延長可)
 対 象：長崎大学に勤務する職員のお子さん 0歳児(生後57日以上)から小学校就学前まで
 定 員：37名
 ※自園調理のため給食・おやつ代は基本料金に含まれます。

入園申し込みやお問い合わせは、長崎大学ダイバーシティ推進センターへお電話ください。
TEL : 095-819-2889



おもやい保育園 職種別利用数

部局等	内訳	人数(※)
大学	教授	1
	准教授	6
	助教	3
	事務職員	14
	技術職員	2
	技能補佐員	1
	学生	3
病院	助手	1
	医員	1
	看護師	1
	技術職員	1
合計		34人

2022年12月31日現在

おもやい保育園 年齢層別利用児童数

クラス	収容定員	人数(※)
0歳	7	7
1歳	8	9
2歳	8	8
3歳	7	5
4歳	7	4
5歳		3
合計	37人	36人

2022年12月31日現在

※両親共に大学職員の場合や1家庭で複数人の児童利用等により、人数には差異があります。



【地域病院の取り組み】

6) ワークライフバランス推進員

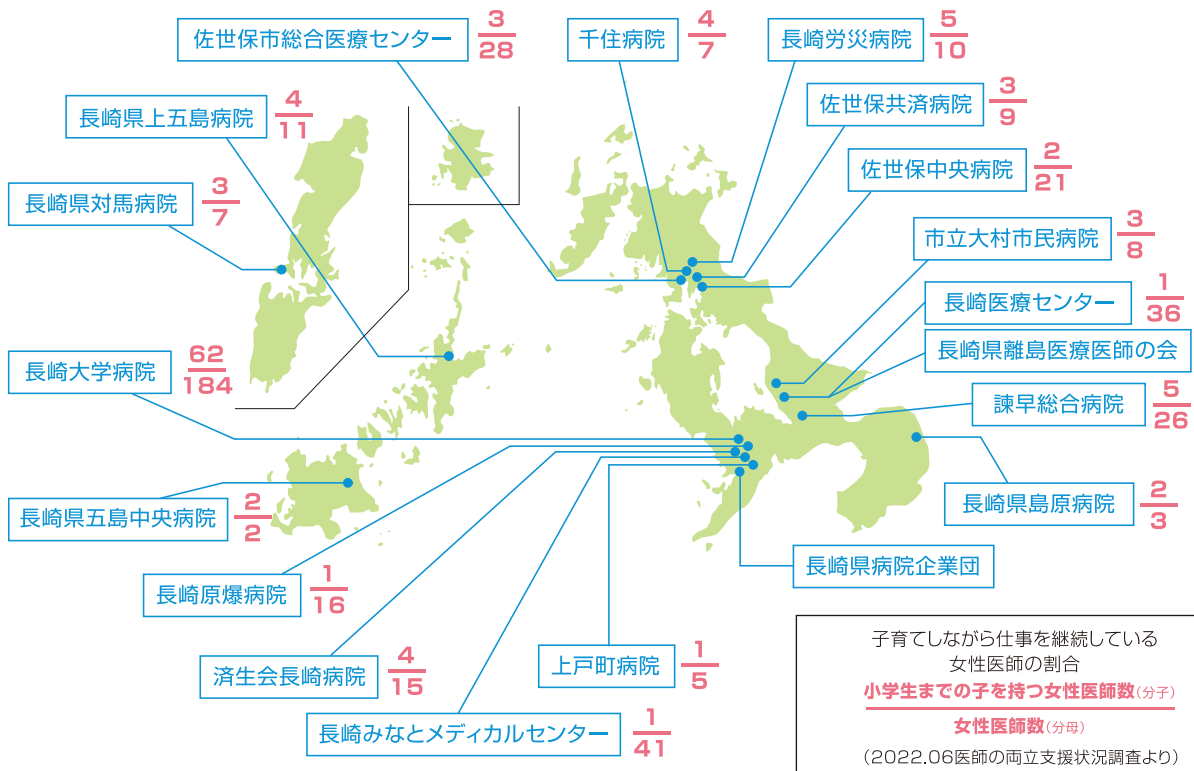
ワークライフバランス施策の一つとして、県内の病院や医局の「ワークライフバランス推進員」に旗振り役として活動してもらうことを推奨しています。

病院や医局窓口としてメディカル・ワークライフバランスセンターと有益な情報交換や協力関係を築くことで、円滑に職場復帰への道筋を示すことが可能になりました。また、安心してライフイベントを迎え、キャリアを継続できる地盤も固まってきました。

県内17病院と2団体にワークライフバランス推進員がいます

研修医が活動する病院には、ワークライフバランス推進員がいます。

「長崎県内の病院は、どこも働きやすい」の魅力を伝え、県内外からの優秀な人材の確保・定着に努めます。



ワークライフバランス推進員45名(敬称略) 2023年1月現在

1長崎みなとメディカルセンター 野崎 彩 糖尿病・内分泌内科	12佐世保中央病院 落合 朋子 循環器内科	⑧佐々木 理代 小児科
2長崎原爆病院 猪熊 美枝 麻酔科	13千住病院 安達 美里 呼吸器内科	⑨田中 彩 腫瘍外科
3済生会長崎病院 木下 直江 病理診断科	14長崎県五島中央病院 長置 美穂 内科	⑩小坂 太郎 移植・消化器外科
4上戸町病院 小室 多恵子 麻酔科	15長崎県上五島病院 遠藤 末紗 眼科	⑪白石 早紀 整形外科
5長崎医療センター 山口 美知子 麻酔科	16長崎県対馬病院 春日亀 千寿 小児科	⑫芦田 美輪 皮膚科・アレルギー科
6諫早総合病院 橋本 さつき 消化器内科	17長崎県離島医療医師の会 山口 純子 産婦人科	⑬松尾 朋博 泌尿器科・腎移植外科
7市立大村市民病院 松尾 俊和 腫瘍外科	18長崎県病院企業団 小屋松 加奈子 産婦人科	⑭原田 史織 眼科
8長崎県島原病院 菅崎 七枝 呼吸器内科	19長崎大学病院	⑮木原 千春 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
9佐世保市総合医療センター 川下 さやか 産婦人科	①住吉 玲美 第一内科・リウマチ/膠原病内科	⑯井手口 怜子 放射線科
10佐世保共済病院 木本 文子 麻酔科	②吉村 俊祐 脳神経内科	⑰重富 典子 産科婦人科
11長崎労災病院 本田 章子 第二呼吸器科	③高園 貴弘 第二内科・呼吸器内科	⑱山下 春奈 麻酔科
	④阿部 伸一 第二内科・腎臓内科	⑲日宇 健 脳神経外科
	⑤田淵 真惟子 消化器内科	⑳東 晃史 形成外科
	⑥本田 智大 循環器内科	㉑田口 駿介 心臓血管外科
	⑦大橋 愛子 精神科神経科	㉒蓬萊 真喜子 血液内科
		㉓松井 昂介 感染症内科・総合診療科
		㉔上村 恵理 救急科
		㉕酒井 和香 リハビリテーション科
		㉖加勢田 富士子 臨床検査科
		㉗松島 加代子 医療教育開発センター



ワークライフバランス推進員意見交換会

【第1回】

形 式：対面
日 時：2022年8月19日(金) 16:00～17:00
場 所：長崎大学病院中央診療棟2階 多目的指導室
参 加：6名(院内6名)



対面かオンライン形式のいずれかに合計14名の推進員が参加しました。欠席の先生方には、センターへのご意見やご要望を文書で伺いました。

センターの取組を抜粋報告後、いただいたご意見の中で今後センターが関与すべきと思われるのは、①当直明けの退勤体制の整備 ②仕事と介護の両立事例紹介 ③グループ主治医制の推進などで、男性育休取得推進と女性活躍推進に加えて、性別を問わず働きやすい環境の整備を目指して活動したいと思います。

【第2回】

形 式：対面
日 時：2023年1月16日(月) 16:00～17:00
場 所：長崎大学病院中央診療棟2階 多目的指導室
参 加：5名(院内5名)




対面とオンライン形式の3回に分けて、院内外から20名の推進員が参加しました。


男性育休についての様々なご意見があり、制度が浸透してきていることがわかりました。完全な休業が難しい診療科では、男性医師の定時勤務&夜の当直免除による出産後の支援を行っている、行う計画があるという診療科が複数あり、それぞれの医師の働き方にあった支援が実行されていました。また、2025年度からの医師の働き方改革に向けて、複数主治医制や、当直明けの退勤、当直体制(院外医師の当直)についての不安など、取り組むべき課題の発表がありました。また、妊活への理解と支援、ひとり親支援、双子支援、休暇取得推進などについても、意見交換ができました。

診療科・病院毎に異なる慣習があり、意見交換会で情報を共有することで、働きやすい環境の整備につながると思います。医学の始まりは長崎から、医師の働き方改革も、長崎から発信していけるように、次年度も活発な意見交換をお願いします。

仕事と生活の両立を図りながら活躍するドクターのサポートを引き続き、よろしくお願いいたします。

形 式：オンライン(Zoom) 
日 時：2022年8月22日(月) 16:00～17:00
参 加：8名(院内5名、院外3名)



形 式：オンライン(Zoom) 
日 時：2023年1月16日(月) 15:00～16:00
参 加：6名(院内3名、院外3名)



日 時：2023年1月20日(金) 16:00～17:00
参 加：9名(院内8名、院外1名)





7) 地域就労支援病院

県内病院の就労支援情報を掲載しています。就労希望の診療科や両立に配慮した職場環境を地域毎に検索できます。

検索手順

1 希望する条件をクリック(複数選択可)

(例)外科&病児保育の場合

- 内科 外科 整形外科 形成外科 脳神経外科
 - 小児科 産婦人科 皮膚科 眼科 泌尿器科 耳鼻咽喉科
 - リハビリテーション科 放射線科 麻酔科 精神科 検診
 - その他 全科対応可能
-
- 時間短縮勤務制【正規職員】 パートタイム制
 - フレックスタイム制 家庭の事情等による急な勤務変更へのバックアップ体制 当直免除
 - ベビーシッター費用補助 院内保育園
 - 提携【院外保育園】 病児保育 育児休業・介護休業等、長期休暇取得後の現場復帰 育児休業・介護休業中の給与を保障 ワークライフバランス推進員がいる その他

2 検索

検索ボタンをクリック

3 条件を全て満たした病院が表示される

- ワークライフバランス推進員がいる病院
- 長崎市
 - 長崎大学病院
- 佐世保市
 - 佐世保共済病院
 - 佐世保中央病院
- 対馬市
 - 長崎県対馬病院
- 西彼杵郡
 - 長崎北徳洲会病院
- 東彼杵郡
 - 長崎川棚医療センター
- 南松浦郡
 - 上五島病院

※ヒットしない場合は条件を減らして再度検索してください。

登録病院一覧

長崎市 長崎大学病院 済生会長崎病院 長崎腎病院 掖済会長崎病院 井上病院 重工記念長崎病院 長崎みなとメディカルセンター 出島病院 十善会病院 昭和会病院 上戸町病院 杠葉病院 長崎病院 和仁会病院 日見中央病院 田上病院 長崎記念病院 長崎友愛病院 三和中央病院 小江原中央病院 日浦病院 大石共立病院 ニュー琴海病院 田川療養所 光晴会病院 虹が丘病院	長崎原爆病院 三原台病院 聖フランシスコ病院 長崎みどり病院 道ノ尾病院 佐世保市 長崎防災病院 耀光リハビリテーション病院 千住病院 佐世保市総合医療センター 宮原病院 福田外科病院 京町内科病院 佐世保共済病院 佐世保中央病院 天神病院 佐世保北病院 佐世保記念病院 三川内病院 西海病院 サンレモ リハビリ病院 北松中央病院 潜徳徳田循環器科内科整形外科病院 村上病院 佐世保国際通り病院	島原市 高城病院 新生病院 島原マタニティ病院 柴田長庚堂病院 長崎県島原病院 諫早市 諫早記念病院 西諫早病院 宮崎病院 長崎県立こども医療福祉センター 諫早総合病院 小鳥居諫早病院 患寿病院 諫早療育センター みさかえの園あゆみの家 長崎原爆諫早病院 みさかえの園総合発達医療福祉センターむつみの家 姉川病院 山崎病院 慈恵病院	大村市 長崎医療センター 大村共立病院 中澤病院 市立大村市民病院 南野病院 貞松病院 長崎県精神医療センター 平戸市 青洲会病院 谷川病院 北川病院 柿添病院 平戸市民病院 平戸市立生月病院 松浦市 菊地病院 松浦中央病院 対馬市 長崎県対馬病院 壱岐市 長崎県壱岐病院	五島市 郡家病院 五島中央病院 西海市 長崎セント・ノーヴァ病院 真珠園療養所 雲仙市 公立小浜温泉病院 南島原市 泉川病院 西彼杵郡 長崎百合野病院 長崎北病院 女の都病院 長与病院 長崎北徳洲会病院 東彼杵郡 長崎川棚医療センター 鈴木病院 南松浦郡 上五島病院
--	--	--	--	--

地域就労支援病院 登録のお願い

あじさいプロジェクトWebサイトのトップ画面右上のお問い合わせフォームから、「地域病院専用登録フォーム」ボタンをクリックして、ご登録ください。情報の更新も随時受付しています。
※ご登録のメールアドレスに、メールマガジン「あじさいプロジェクト通信」等、情報提供します。

地域就労支援病院 登録総数 県内146病院のうち、101病院(登録率69%)



8) 私たちのワークライフバランス実践術

ワークライフバランスを実践している医師など医療人のみなさんへ、両立のコツやキャリアについてインタビューしています。※インタビュー全文は、あじさいプロジェクトWebサイトをご覧ください。

2022年度、長崎大学病院で育児休業を取得した男性職員は、**22名**です。

過去最多!

2022年10月、産後パパ育休(出生時育児休業)が新設されたことで、男性が育児休業をさらに取得しやすい環境が整いました。

長崎大学で産後パパ育休の取得第1号・教授自ら育児休業を取得して「働きやすい診療科」を体現した男性医師へ、緊急インタビューを行いました。

【私たちのワークライフバランス実践術No.23】

2022年10月インタビュー

長崎大学病院 心臓血管外科(教授) 三浦 崇 先生
循環器内科医のパートナー(育児休業中)と2人のお子さん(4歳、1か月)

『教授になって育休を取ってみた!分割取得はおすすめですよ!!』



Q.周囲(同じ診療科の医師など)から反応はありましたか。

A.うち(心臓血管外科)の診療科は、男性の育休取得がスタンダードになっていますので、後輩達は、私が取得してホッとしたようです。個人的には、教授に就任して1か月程度(2022年9月1日付就任)でしたので、休職に伴う手術への影響などが不安でした。そこで、**河野 茂**学長、そして**中尾 一彦**病院長に取得の意向をお伝えしました。お二人の先生からは取得への後押しがあり、大変、心強かったです。『上司の理解』の大切さを再確認しました。

Q.育休を取得して良かったと思いますか。

A.良かったですね。後輩には育休取得をすすめてはいたものの、実態は「?」でしたが、今回の取得でよくわかりました。育休中の経験があると、帰宅して何をするとよいのかがわかりますしね。夜のお世話も、今でも続けています。妻には十分な睡眠をとってもらいたいと思っています。母親の「産後うつ」の原因の一つに睡眠不足があることを聞きましたので、そこはフォローしていきたいと思っています。



Q.育休を取得して感じるプラス面・マイナス面はどんなことですか。

A.プラス面は、普段、妻がどれだけ頑張っているかがよくわかったことです。大変さは理解しているつもりでしたが、実際に体験してみて、妻の有難さと偉大さを再確認しました。感謝の気持ちでいっぱいです。マイナス面は、仕事が気になったことですが、それは教室の先生方や診療看護師などがしっかりカバーしてくれました。私のような仕事好きな人は、長期間休むと禁断症状が出て変調をきたすかもしれませんので、複数回に分けて短期間の取得から試してみることが良いように感じました。来月は新たに1週間取得する予定にしていますし、半年後位にも1週間取得しようかなと考えています。

Q.他の診療科にも育休取得をおすすめしたいですか。

A.おすすめしたいですね。うちの心臓血管外科は3割が緊急手術で急な呼び出しもあるため、仕事に対しての家族の理解・支援がないと成り立ちません。医師としてイキイキと働き続けられるように、心臓血管外科の医師には有給休暇もできる限りとって欲しいし、引き続き男性育休を取得してもらう方針です。とはいえ、それぞれの科の状況や事情もあるでしょうから「育休取得を検討する価値は高いですよ!」というメッセージになります。男性育休は、いろんな意味で日本の将来に好影響を与える制度だと思います。家庭円満(夫婦間の仕事への理解向上など)、少子化対策でしょうか。日本の育休が進み、子ども達が親の世代になったときにどうなっているのか、今から100年後はどうなっているのか、とても楽しみです。

3. 調査・研究

※詳細は、あじさいプロジェクトWebサイトをご覧ください。

1 2022年度 医学生におけるワークライフバランス、キャリア意識に関するアンケート

1. 調査の目的

「ワークライフバランス」に関する講義の受講前後で、キャリアプランニングや仕事とライフイベントの両立、産前産後の制度などについて、学生の意識・考え方の変化を把握するため。

2. 対象と方法

実施日：2022年9月30日

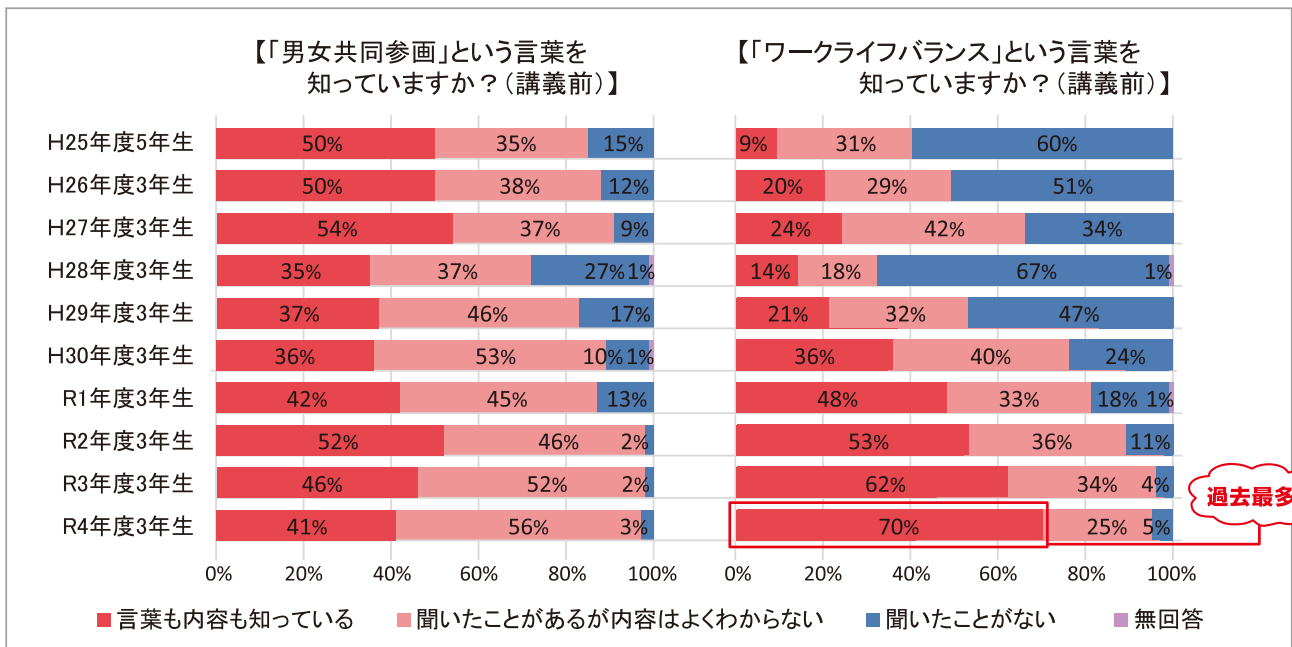
調査対象：医学部3年生124名(男子85名、女子39名)

調査方法：「医と社会」授業1～6時限を使って実施し、ワークライフバランス講義、医師夫婦の両立事例をグループワーク、グループ発表、意見交換、先輩医師からのアドバイス、ロールモデル医師講演、キャリア&ライフ未来年表の作成を行う。授業前後でgoogleフォームを利用しアンケートを行った。

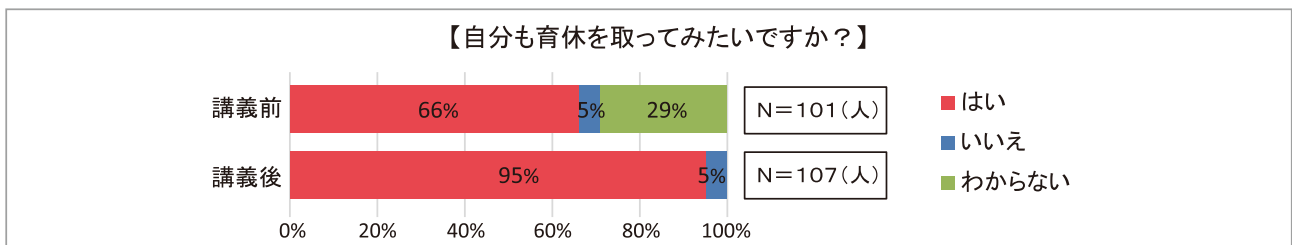
3. 結果と考察

回答数(回答率)：授業前 回答101名(81%)

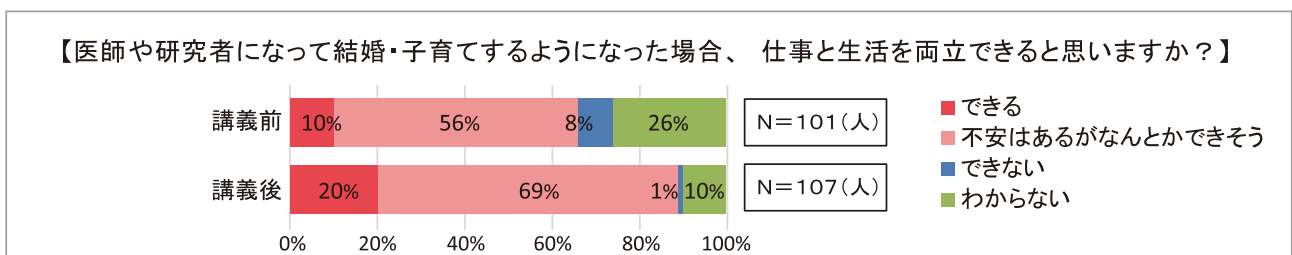
授業後 回答107名(86%)



●「ワークライフバランス」の言葉も内容も知っている割合は過去最多70%に上り、令和元年以降「男女共同参画」よりも認知されるようになった。



●講義後の「自分も育休を取ってみたい」学生の割合は95%(男性95%、女性97%)。講義を受ける前から、育休取得を考える学生が性別を問わず年々増えている。



●講義後には、仕事と生活の両立への自信は89%と高い割合に到達し、「できない」「わからない」の割合はいずれも減少。講義の意義を感じた。

2 2022年度 医師の両立支援状況調査

1.調査の目的

長崎県内病院の育児・介護休業制度等の両立支援策の取組状況の実態調査を行う。また、調査結果を、Webサイトやメールマガジンを通して情報発信を行うことで、個人や組織に働きやすい職場環境づくりを推奨する。

2.対象と方法

実施月：2022年6月

調査対象：長崎県内147病院

調査方法：調査票を郵送し、同封の返信用封筒やメールで回収。

質問内容：常勤・非常勤医師数、子育て中の医師数、育児休業・介護休業を取得した医師数、両立支援策の取組など。

3.結果

配付・回答数(回答率):配付147病院 回答113病院(77%)

【調査結果】

①2014年度より100以上の病院から調査の回答を得ている。

回答した病院に勤務する女性医師の割合は23%で、2013年度以降23±1%で推移しており、変わらない結果であった。勤務形態が非常勤の割合は、男性医師17%、女性医師31%と、男性<女性の結果も例年通りであった(P35・図1)。

②子育て中(小学6年生までの子がいる)の男性医師は483人で男性医師全体の25%、医師全体の19%であった。子育て中の女性医師は140人(昨年2021年度は160人で過去最多)で女性医師全体の24%、医師全体の6%であった(P35・図1、5)。

③常勤で働く医師がいる病院は、男性医師112病院、女性医師74病院であった。子育て中の医師(常勤+非常勤)は、男性医師55病院、女性医師38病院に勤務している。

子育て中の女性医師は、すべての医療圏で勤務しているが、離島医療圏(五島・上五島・吉岐・対馬)で働く女性医師数および子育て中の女性医師数は経年的に増加傾向である。

④2021年度に育児休業を取得した医師は、男性医師8人(3病院のうち新・鳴滝塾の病院7人 [うち長崎大学病院4人])で、直近3年間の調査で過去最多であった。女性医師は35人(19病院のうち新・鳴滝塾の病院28人 [うち長崎大学病院10人])で著変なかった(P35・図2)。

2021年度に介護休業を取得した医師は、女性医師1人のみであった。

⑤両立支援制度の整備については、短時間正規雇用制度導入率40%台と院内保育施設の設置率30%台は著変なく、院内病児保育施設の設置も、新しく開設した病院は無かった(P35・図3)。院内保育施設のうち、利用者が育児休業中でも預けられる病院は、全体の68%に留まった。

⑥「育児休業を取得しやすい環境整備・個別の周知・取得意向確認措置の義務化、有期労働者の育休取得条件緩和が課せられることを知っていますか」の問いに対して、11病院(10%)が知らないと回答、「出生時育児休業(産後パパ育休)の創設、男性は最大4回に分割した育休を取得可能になることを知っていますか」の問いに対して、21病院(19%)が知らないと回答(P35・図4)。

(考察)

- 育児休業中に上の子を院内保育施設に預けられない病院もあるため、今後に備えて早めの制度見直しをご検討ください。

- 研修医・専攻医など若い世代の医師が多く勤務する新・鳴滝塾の16病院については、すべての16病院に子育て中の医師が勤務しています。短時間正規雇用制度・院内保育施設・院内病児保育施設の整備が進んでいない病院は、職員の定着、若い世代に選ばれる病院になれるようにご検討ください。

- 育児休業取得希望者が出た時に、迅速な対応ができるように、特に新・鳴滝塾16病院はご準備ください。

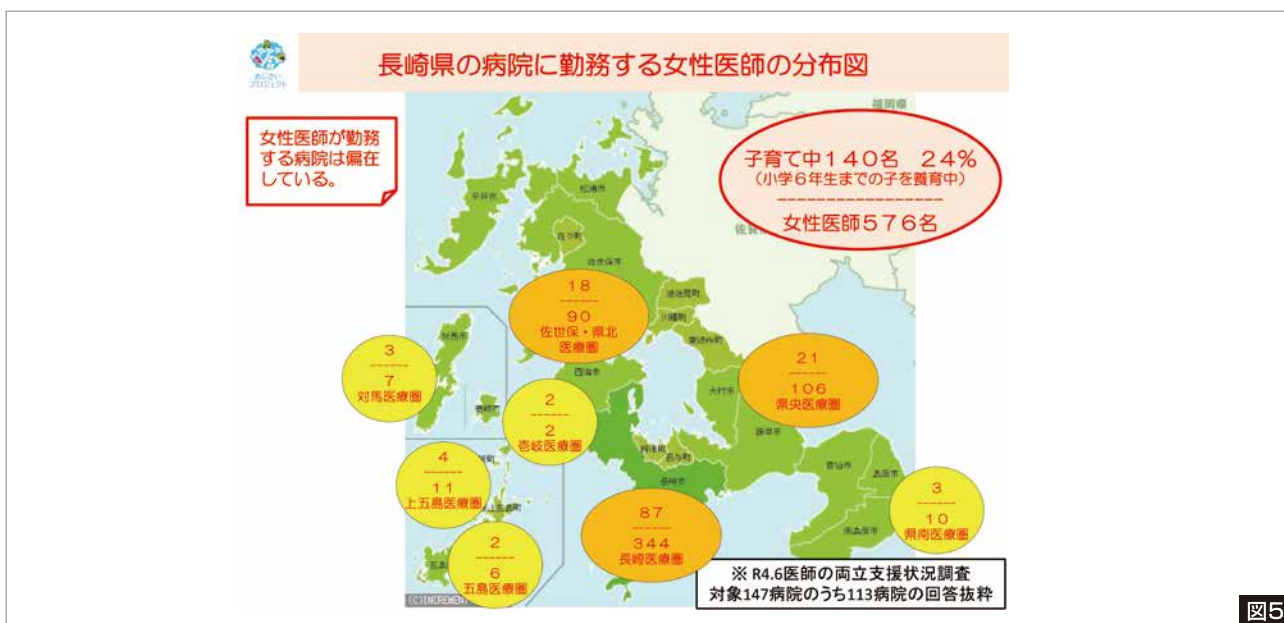
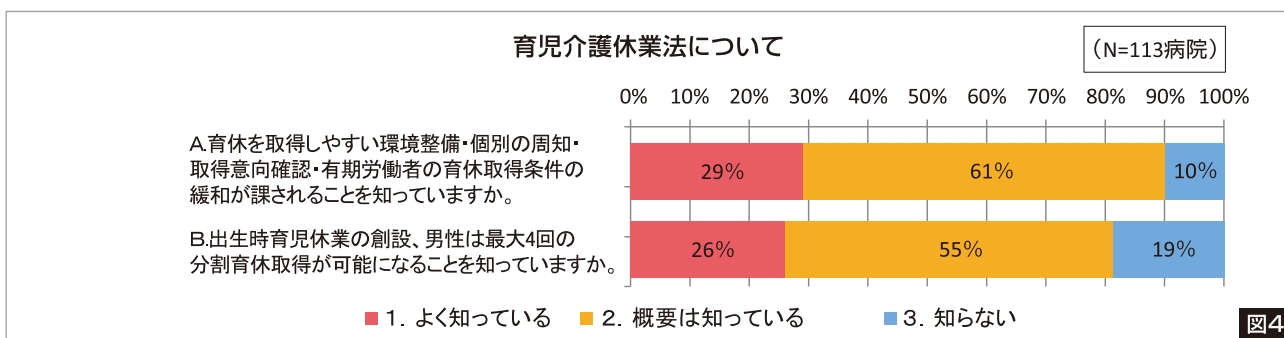
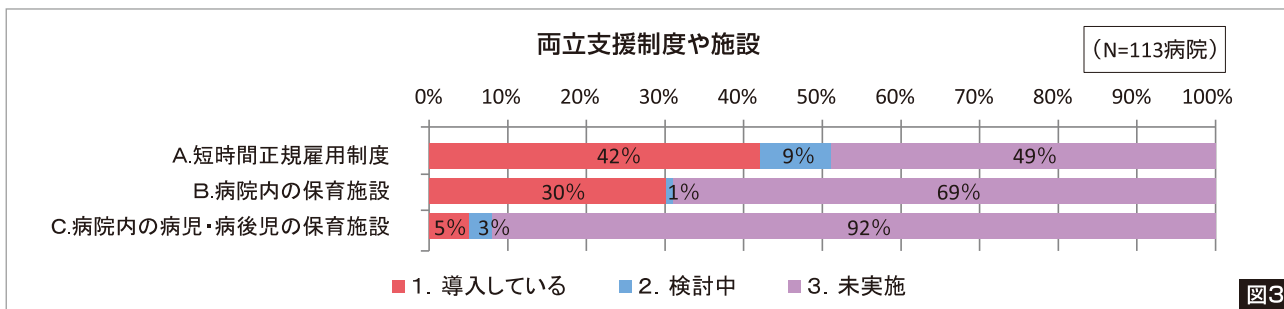
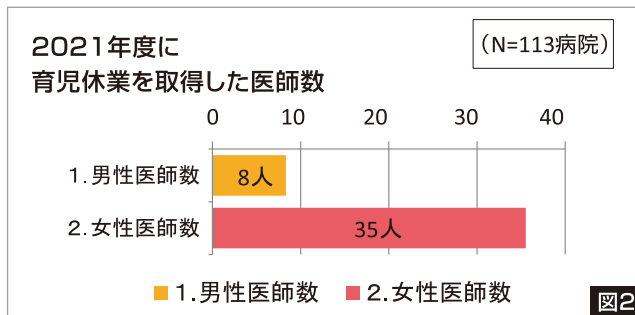
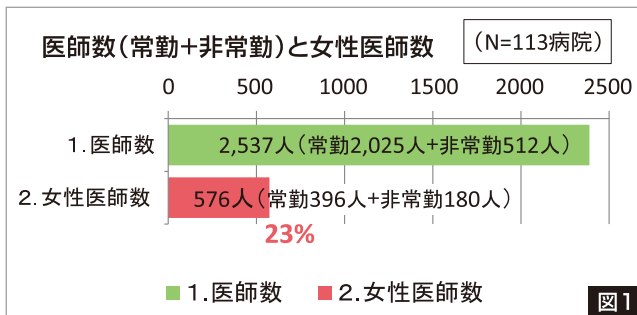
【医療圏別の女性医師について】

県内全ての医療圏の病院に女性医師および子育て中の女性医師が勤務している(P35・図5)。

(所感)

男性医師の育児休業取得数や、離島で働く女性医師が徐々に増えてきています。センターでは、これからも長崎県内で働くすべての医師が、イキイキと仕事と生活の両立ができるように「あじさいプロジェクト」活動を推進していきます。

「長崎医師保育サポートシステム」事業を、県内全域に展開したいと考えていますので、利用希望の医師は、センターへお問い合わせください。



男性の育児休業取得が増えることで期待される効果や職場でのエピソード(抜粋)

- 事務職・看護師・作業療法士の男性職員の育児休業取得実績あり。特に今回の男性看護師は、6か月の期間を連続して取得した。「Nびか」「くるみん」を早期に取得したため、子育て環境が整った病院として職員の求職応募もある。(長崎医療圏病院)
- 育児が女性だけの仕事ではない事の認識に繋がりを、ひいては職場内等で共助の精神が醸成される。(佐世保医療圏病院)
- 夫婦で勤務している医療職で、女性が早めに復帰を希望し、残りの育児休業を男性が取得した。(県中央医療圏病院)

4. 広報活動

1 講演

- ・2022.10.24(東京)南貴子:
「AJISAI PROJECT FROM NAGASAKI」プリストル・マイヤーズ スクイブ 株式会社
B-NOW Japan web講演会「女性医師の視点から考えるライフイベントとキャリアの両立」

2 メディア掲載

- ・長崎大学病院イントラネット「支える人の仕事場」シーズン3 2022.5掲載
第2回 メディカル・ワークライフバランスセンター
- ・厚生福祉時事通信社 第6730号 2022.5掲載
エッセー「西の街から」 第14回 女性医師をめぐる葛藤②(南貴子)
- ・厚生福祉時事通信社 第6733号・合併号 2022.5掲載
エッセー「西の街から」 第15回 女性医師をめぐる葛藤③(南貴子)
→時事メディカル、Yahoo!ニュース 2022.6転載
- ・長崎県医師会報 第917号 2022.6掲載
男女共同参画委員会からのお知らせ「マタニティ白衣・スクラブ・パンツー長崎県内全域に無料レンタルしますー」(瀬戸牧子)
- ・長崎県医師会報 第918号 2022.7掲載
男女共同参画委員会からのお知らせ「復職&リフレッシュトレーニングー2022年度のスケジュールが決まりましたー」(瀬戸牧子)
- ・長崎県医師会報 第919号 2022.8掲載
医事小論「男女共同参画の歩み」(瀬戸牧子) 石川県医師会へ転載許可 2022.10
男女共同参画委員会からのお知らせ「長崎医師保育サポートシステムー仕事と育児の両立を図るために利用してみませんか?ー」(瀬戸牧子)
- ・長崎県医師会報 第921号 2022.10掲載
男女共同参画委員会からのお知らせ「長崎医師保育サポートシステムー保育サポーター募集!DVD視聴による説明と研修を個別に実施中ー」(瀬戸牧子)
- ・日本医師会DOCTOR-ASE[ドクターゼ]医学生がこれからの医療を考えるための情報誌 NO.43
2022.10掲載
医師の働き方を考える 医師の多様な働き方の実現を目指して県や大学に働きかけていく(伊東昌子)
- ・長崎県保険医協会 勤務医ニュース 第43号 2023.1掲載
「医師のワークライフバランスを考える せまる働き方改革施行」(伊東昌子)

<長崎医師保育サポートシステム関連>

DVD視聴による保育サポーター説明&研修 事前告知		保育サポーター募集のお知らせ	
・NBCラジオ 県庁タイムス	2022.6.20~ 2022.6.24放送	・週刊生活情報誌「ライフさせぼ」vol.2149	2022.5.13掲載
・長崎新聞 県からのお知らせ	2022.6.23掲載	・「広報しまばら」 7月号 No.818	2022.7掲載
・長崎新聞 情報アラカルト	2022.6.14、 2022.11.2掲載	・「広報しまばら」 10月号 No.821	2022.10掲載
・「広報ながさき」 6月号 No.857	2022.6掲載	・「広報させぼ」 7月号 vol.860	2022.7掲載
・「広報とぎつ」 7月号 No.655	2022.7掲載	・「広報させぼ」 11月号 vol.864	2022.10掲載
・「広報とぎつ」 10月号 No.658	2022.10掲載	・「広報いき」 6月号 No.219	2022.6掲載
・「広報ながよ」 6月号 No.795	2022.6掲載	・「広報いき」 10月号 No.223	2022.10掲載
・「広報ながよ」 10月号 No.799	2022.10掲載	・「広報しんかみごと」6月号 No.214	2022.6掲載
・「広報いさはや」 6月号 vol.207	2022.6掲載		
・「広報おおむら」 6月号 No.1514	2022.6掲載		
・「広報おおむら」 10月号 No.1518	2022.10掲載		

5. 委員会活動

1 センター運営委員会

センター運営委員会(事業計画)

日時：2022年6月8日(水)
メール会議

センター運営委員会(事業実績)

日時：2023年3月17日(金)
16:00～17:00

場所：長崎大学病院 多目的指導室
出席者：未定

長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター
運営委員名簿(2022年度)

	所 属	役 職	氏 名
1	メディカル・ワークライフバランスセンター	センター長 准教授	南 貴子
2	医療教育開発センター 医師育成キャリア支援室	教授	松島 加代子
3	小児科	講師	白川 利彦
4	産科婦人科	准教授	北島 道夫
5	小児歯科	准教授	田上 直美
6	臨床研究センター 管理ユニット	教授	福島 千鶴
7	薬剤部	教授	大山 要
8	看護部	部長	小淵 美樹子
9	総務課	課長	笹田 健太
10	人事企画課	課長	吉岡 裕敏
11	経営管理課	課長	五島 博史
記録	総務課	主査	森田 知之

(敬称略)

2 企画会議

日時：2022年5月20日(金) 10:00～12:00

場所：メディカル・ワークライフバランスセンター

出席者4名：南副センター長、クラスペディア吉岡氏、センター事務 三宅、山下

議題：1. 県内病院の「医師の両立支援状況調査」について

2. 学生キャリア講習会について

3 長崎県女性医師等就労支援協議会

日時：2023年3月24日(金)
10:00～11:30

場所：オンライン



出席者：未定

列席者：メディカル・ワークライフ
バランスセンター 南 貴子

長崎県女性医師等就労支援協議会委員名簿(2022年度)

	所 属	役 職	氏 名
1	長崎県医師会	常任理事	瀬戸 牧子
2	長崎大学病院 医療教育開発センター	センター長/教授	濱田 久之
3	長崎大学医学部医学科 先端医育センター	センター長/教授	安武 亨
4	長崎医療センター	院長	八橋 弘
5	佐世保総合医療センター	副院長	早田 宏
6	ながさき女性医師の会	副会長	黒崎 伸子
7	医療人材対策室	室長	峰松 妙佳

(敬称略)

6. その他

1 参加・受講

- 2022.04.12(オンライン) **南貴子・三宅スズタイ由香・山下洸** 長崎大学病院 医師の働き方改革に係る講演「医師の働き方改革の効果的なススメ方」
- 2022.05.09(オンライン) **南貴子・三宅スズタイ由香・山下洸** 長崎大学「アンコンシャス・バイアス入門動画」
- 2022.05.26(オンライン) **南貴子・三宅スズタイ由香・山下洸** 長崎大学「ダイバーシティ&インクルージョンの視点・社会の動向」
- 2022.06.23(オンライン) **南貴子・三宅スズタイ由香・山下洸** 長崎大学「女性も男性も活躍する社会」
- 2022.07.28(オンライン) **南貴子** 長崎大学【ワークショップ】「自分の中のアンコンシャス・バイアスに気づく」
- 2022.08.03(オンライン) **南貴子** 長崎大学「性的マイノリティの若者支援に必要な視点」
- 2022.08.19(オンライン) **南貴子・三宅スズタイ由香・山下洸** 長崎大学 仕事と介護の両立セミナー「離れて暮らす親の介護「マネジメント」で乗り切る仕事との両立」
- 2022.09.16(オンライン) **南貴子** 日本経済新聞社 日経BP ジェンダーギャップ会議「次世代につなげる、グローバルで活躍する女性リーダーたち」
- 2022.09.29(オンライン) **南貴子** 長崎大学「文化の多様性と、共に生きる社会」
- 2022.10.07(オンライン) **南貴子・三宅スズタイ由香・山下洸** 長崎大学 仕事と介護の両立セミナー「地域包括支援センターの機能と活用方法～現状と支援制度について～」
- 2022.10.21(オンライン) **南貴子・三宅スズタイ由香・山下洸** 長崎大学「男性の子育てについて考える」
- 2022.11.25(オンライン) **南貴子・三宅スズタイ由香・山下洸** 長崎大学「ケアしながら働くこと・学ぶこと」
- 2022.12.01(オンライン) **南貴子・三宅スズタイ由香・山下洸** 長崎大学「多様性の活きる働き方」
- 2023.01.20(オンライン) **南貴子・三宅スズタイ由香・山下洸** 長崎大学「職場のダイバーシティの壁を見える化する」
- 2023.02.09(オンライン) **南貴子・三宅スズタイ由香・山下洸** 久留米大学「選ばれる職場を目指して～男性医師の育児休業取得を応援しよう～」
- 2023.02.15(オンライン) **南貴子・三宅スズタイ由香・山下洸** 長崎大学「他者とともに働く・職場を変える対話を生み出す」
- 2023.03.03(オンライン) **南貴子・三宅スズタイ由香・山下洸** 長崎大学「働き方を変えていく」
- 2023.03.09(オンライン) **南貴子・三宅スズタイ由香・山下洸** 文部科学省科学技術人材育成補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」長崎大学「病院の働き方改革シンポジウム」

2 見学来訪

- 2022.05.27 長崎県警察本部のご担当者様へ「長崎医師保育サポートシステム」や「当直中の育児支援」の取組概要や運用等について説明

3 調査協力

- 2022.05.24 大分大学医学部附属病院からの調査協力依頼「医師の働き方等に関する意識調査」ワークライフバランス推進員経由で医局員とメールマガジン「あじさいプロジェクト通信」臨時号で周知

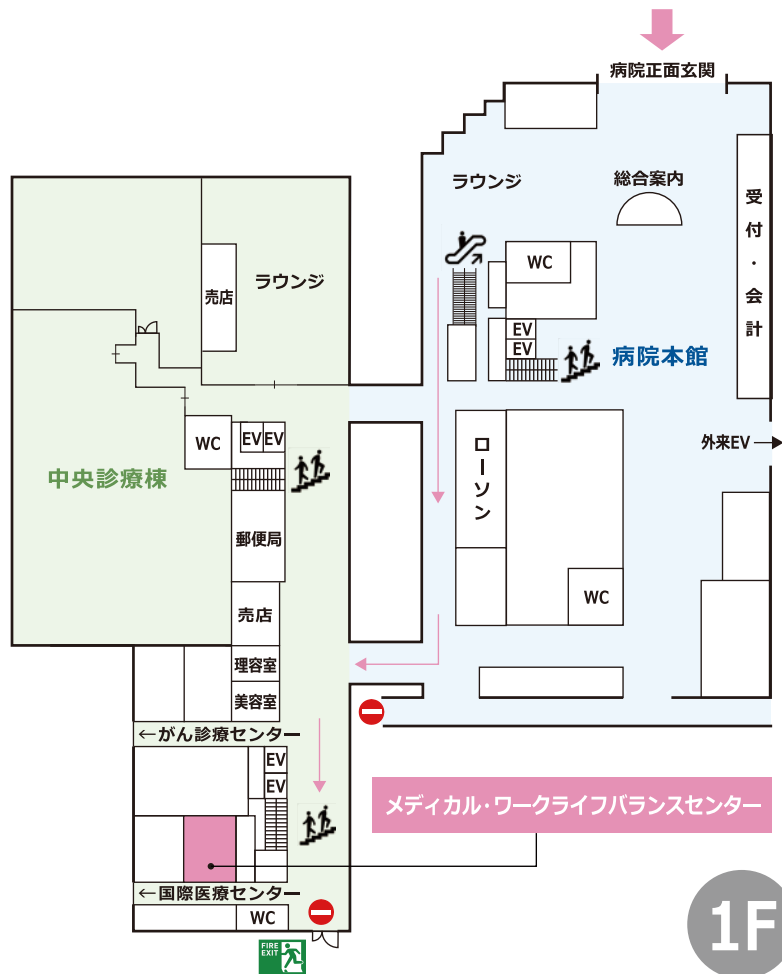
4 関連機関所属一覧

南貴子 センター長

長崎県医療勤務環境改善支援センター運営協議会 委員
長崎大学キャリアセンター運営委員会 委員
長崎大学医学部医学科学生委員会 構成委員
ダイバーシティ推進センター働き方見直し推進委員会 委員
日本循環器学会九州支部 評議員
日本循環器学会九州支部 ダイバーシティ委員会 委員
Lovebaby推進委員会 委員

5 メディカル・ワークライフバランスセンターへのアクセス

長崎大学病院 中央診療棟1階です。



2022年度 あじさいプロジェクト活動報告書
2023年2月発行

発行 長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター
〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号
電話&FAX 095-819-7979
E-mail info01@nagasaki-ajisai.jp
URL <http://nagasaki-ajisai.jp>

メンバー

センター長 南 貴子
センター事務 三宅スコラスタイン 由香
センター事務 山下 洸

編集協力・印刷

JiHHi design(ジッヒ デザイン)
電話 080-3905-5865



[Webサイト]

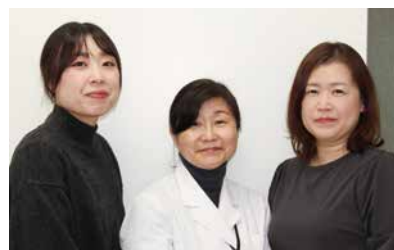


[facebook]



メルマガ配信中!

[メルマガ]



※撮影時のみマスクを外しております。

